

平成26年

# 大仙市中学生議会

実施記録集



平成26年1月9日（木）

主催：大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

# 【 目 次 】

大仙市中学生議会実施要項	2
大仙市中学生議会（大仙市中学生サミット）次第	3
平成26年 大仙市中学生議会 議事日程【第1号】	4
大仙市中学生議会 議席指定一覧表	5
一般質問通告書	
一般質問者と質問通告内容	6～17
<開会式>	
橋村 誠 大仙市議会議長あいさつ	18
<中学生議会>	
会議録（写真入り）	19～45
<閉会式>	
栗林次美 大仙市長 お礼のあいさつ	46
三浦憲一 教育長 記念品の贈呈	48
中学生議員代表（伊藤真央）お礼の言葉	48
新聞記事等	49～52
秋 田 魁 新 報	
読 売 新 聞	
秋 田 民 報	
だ い せ ん 日 和	

# 大仙市中学生議会実施要項

## 1 目 的

市議会の議場を利用し、未来を担う中学生が“議長や議員”となって、まちづくりや教育行政など、生徒に身近なテーマについて一般質問形式で質問、提案を行い、市政及び市議会への興味と理解を深めるとともに、その体験を実際の学校生活（生徒会活動等）や地域の行事などで役立てて行くことにより、総合的な学力の育成の一層の推進を図ります。

中学生議員からいただいた意見などは、これからのまちづくりの参考にしていきます。

学校関係者、中学生議員の保護者も傍聴に訪れることから、市議会にも関心がもたれ、今後の市議会の活性化にもつながるものと期待されます。

## 2 主 催

大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

## 3 開催日及び開催場所

平成26年1月9日（木） 大仙市役所3階「本会議場」

## 4 日 程

### <開会式>

～記録用写真撮影～

1. 開 会
2. 当局職員の紹介（議会事務局長）
3. 議長あいさつ（橋村誠議長）
4. 中学生議長・副議長の紹介（議会事務局長）

午後1時00分

### <中学生議会>

1. 開会（中学生議長）
2. 招集あいさつ（栗林次美市長）
3. 議席の指定（中学生議長）
4. 会議録署名議員の指名（中学生議長）
5. 会期の決定（中学生議長）
6. 一般質問 ※一般質問席に登壇 1校1質問

予定時間	1校～5校	午後1時15分～午後2時30分
	休 憩（議長の交替）	午後2時30分～午後2時45分
	6校～10校	午後2時45分～午後4時00分

7. 決議案
8. 閉会（中学生議長）

### <閉会式>

1. 市長あいさつ（栗林次美市長）
2. 記念品の贈呈（三浦憲一教育長）
3. 中学生議員 お礼のことば
4. 閉会式の閉会

午後4時30分

# 大仙市中学生議会 次 第

## (大仙市中学生サミット)

### 【開会式】

～記録用写真撮影～

1. 開 会
2. 出席者の紹介
3. 大仙市議会議長あいさつ
4. 中学生議長・副議長の紹介

### 【中学生議会 議事日程】

大仙市長招集あいさつ		
第1	議席の指定	
第2	会議録署名議員の指名	
第3	会期の決定（1日間）	
第4	一般質問	
第5	決議案第1号	「大仙市中学生議会（大仙市中学生サミット）宣言」に関する決議

### 【閉会式】

1. 大仙市長あいさつ
2. 記念品の贈呈
3. 中学生議員 お礼のことば
4. 閉 会

## 平成26年 大仙市中学生議会 議事日程【第1号】

平成26年1月9日（木）午後1時 開 議

大仙市長招集あいさつ																																
第1	議席の指定																															
第2	会議録署名議員の指名																															
第3	会期の決定（1日間）																															
第4	一般質問	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">①</td> <td style="width: 35%;">大曲中学校</td> <td style="width: 30%;">伊藤 徹・渡邊 さくら</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>大曲西中学校</td> <td>阿部 駿汰・田口 愛菜</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>大曲南中学校</td> <td>寺田 信・照井 毬乃・小場 心愛</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td>平和中学校</td> <td>谷屋 開陸・三浦 優人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td>西仙北中学校</td> <td>佐々木 光・大塚 美優</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td>中仙中学校</td> <td>藤田 隼平・高橋 悠菜</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑦</td> <td>豊成中学校</td> <td>池田さゆか・相馬 啓人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑧</td> <td>協和中学校</td> <td>小山田有希・茂木佳奈子</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑨</td> <td>仙北中学校</td> <td>小林 成輝・本間 紫苑</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑩</td> <td>太田中学校</td> <td>小松 美結・高橋 大翔</td> </tr> </table>	①	大曲中学校	伊藤 徹・渡邊 さくら	②	大曲西中学校	阿部 駿汰・田口 愛菜	③	大曲南中学校	寺田 信・照井 毬乃・小場 心愛	④	平和中学校	谷屋 開陸・三浦 優人	⑤	西仙北中学校	佐々木 光・大塚 美優	⑥	中仙中学校	藤田 隼平・高橋 悠菜	⑦	豊成中学校	池田さゆか・相馬 啓人	⑧	協和中学校	小山田有希・茂木佳奈子	⑨	仙北中学校	小林 成輝・本間 紫苑	⑩	太田中学校	小松 美結・高橋 大翔
①	大曲中学校	伊藤 徹・渡邊 さくら																														
②	大曲西中学校	阿部 駿汰・田口 愛菜																														
③	大曲南中学校	寺田 信・照井 毬乃・小場 心愛																														
④	平和中学校	谷屋 開陸・三浦 優人																														
⑤	西仙北中学校	佐々木 光・大塚 美優																														
⑥	中仙中学校	藤田 隼平・高橋 悠菜																														
⑦	豊成中学校	池田さゆか・相馬 啓人																														
⑧	協和中学校	小山田有希・茂木佳奈子																														
⑨	仙北中学校	小林 成輝・本間 紫苑																														
⑩	太田中学校	小松 美結・高橋 大翔																														
第5	決議案第1号	「大仙市中学生議会（大仙市中学生サミット）宣言」に関する決議																														

## 大仙市中学生議会 議席指定一覧表

議席番号	中学校名	氏 名	備 考
1	大曲中学校	伊 藤 徹	
2	〃	渡 邊 さくら	
3	大曲西中学校	阿 部 駿 汰	
4	〃	田 口 愛 菜	
5	大曲南中学校	寺 田 信	
6	〃	照 井 毬 乃	
7	〃	小 場 心 愛	
8	平和中学校	谷 屋 開 陸	
9	〃	三 浦 優 人	
10	西仙北中学校	佐々木 光	
11	〃	大 塚 美 優	
12	中仙中学校	藤 田 隼 平	
13	〃	高 橋 悠 菜	
14	豊成中学校	池 田 さゆか	
15	〃	相 馬 啓 人	
16	協和中学校	小山田 有 希	
17	〃	茂 木 佳奈子	
18	仙北中学校	小 林 成 輝	
19	〃	本 間 紫 苑	
20	南外中学校	伊 藤 栞	
21	太田中学校	小 松 美 結	
22	〃	高 橋 大 翔	
23	南外中学校	大 槻 悠 也	
24	〃	伊 藤 真 央	

平成26年  
大仙市中学生議会

# 一 般 質 問

(平成26年1月9日)

大仙市中学生議会  
(大仙市中学生サミット)

## 【一般質問者と質問通告内容】

No.	学校名	学年	氏名	質問通告内容	担当部
1	大曲中学校	2年 2年	伊藤 徹 渡邊さくら	防災に関することについて	総務部
2	大曲西中学校	2年 2年	阿部 駿汰 田口 愛菜	国際交流に関することについて	企画部
3	大曲南中学校	2年 2年 2年	寺田 信 照井 毬乃 小場 心愛	公園等の維持管理に関することについて	建設部
4	平和中学校	2年 1年	谷屋 開陸 三浦 優人	大仙市の活性化について	農林商工部
5	西仙北中学校	2年 2年	佐々木 光 大塚 美優	大仙市の交通網に関することについて	企画部
6	中仙中学校	2年 2年	藤田 隼平 高橋 悠菜	文化財の周知に関することについて	生涯学習部
7	豊成中学校	2年 1年	池田さゆか 相馬 啓人	地域の福祉や高齢者支援に関わることについて	健康福祉部
8	協和中学校	2年 1年	小山田有希 茂木佳奈子	スポーツや文化に関することについて	教育指導部
9	仙北中学校	2年 2年	小林 成輝 本間 紫苑	ごみに関することについて	市民部
10	太田中学校	2年 1年	小林 美結 高橋 大翔	除雪に関することについて	建設部

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○防災に関することについて	<p>大曲中学校では被災地の岩手県大船渡市赤崎中学校や赤崎地区の住民との交流活動、地元若竹町を中心とした地区との合同防災訓練を通して防災訓練の必要性を強く感じ、防災に対する意識が高まりました。</p> <p>そこで、①大仙市では高齢者や支援が必要な人々の避難対策としてどのようなものがあるか、また②防災設備、備蓄の現状はどのようなになっているのか質問します。</p> <p>さらに、多くの市民が防災意識を高めるために、③年1回「大仙防災デー」を設け、避難所である中学校で住民と中学生が合同の訓練をすることを提案します。</p>

上記のとおり通告します。

平成 25年12月20日

大仙市立大曲中学校 2年 氏名 伊藤 徹  
2年 氏名 渡邊 さくら

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○国際交流に関することについて	<p>私たちの大仙市では、国際教養大学の留学生と小中学生が交流や、オーストラリアへの中学生派遣、韓国との青少年交流などにも取り組んでいます。大曲西中学校でも、この交流活動や派遣事業に参加をさせていただきました。今は、小学校でも外国語活動などで外国の人たちと関わる機会も増え、国際的に活躍できる人づくりが大切になっています。</p> <p>そこで、①留学生や大仙市のALTの先生方や、私たちと年齢が近い外国の中学生と実際に会って交流したりする機会の充実に関して、今後の市の計画について質問します。</p>

上記のとおり通告します。

平成 25 年 12 月 20 日

大仙市立大曲西中学校 2 年 氏名 阿部 駿汰  
2 年 氏名 田口 愛菜

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○公園等の維持管理に関することについて	私たち大曲南地区は、小中学校が連携して環境学習や環境保全活動に取り組んでいます。私たちも、小学生の頃から、角間川小学校、藤木小学校で、川や田んぼの調査や体験活動を通して、地域の環境について学習しました。地域には川港親水公園があり、そこを活用し、 ①将来的に自然観察会の開催を行うことはできないでしょうか。さらに、②市内の公園等の環境整備の現状と計画について教えてください。

上記のとおり通告します。

平成 25年 12月 20日

大仙市立大曲南中学校 2年 氏名 寺田 信  
2年 氏名 照井 毬乃  
2年 氏名 小場 心愛

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○大仙市の活性化について	市のホームページを見ると、大仙市の人口は減少の一途をたどっています。また、大仙市だけでなく、全国がそうであるように、少子高齢化が進んでいます。これから、若者がずっと住み続けられる活気ある、魅力あるまちづくりを展開していくために、①若者が働くことのできる企業の誘致拡大、また、②花火を生かした市の宣伝を行うこと、そして、③大仙市の「ゆるキャラ」を作成し、より大仙市を全国にアピールしてはどうでしょうか。この提案について、現状と今後の計画を教えてください。

上記のとおり通告します。

平成25年 12月 20日

大仙市立平和中学校 2年 氏名 谷屋 開陸  
1年 氏名 三浦 優人

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○大仙市の交通網に関することについて	<p>私たちの住む大仙市では、市民バスや乗り合いタクシーが通り、市民の交通を助けています。このため大仙市の交通網は豊かになっています。</p> <p>そこで、①この市民バスと乗り合いタクシーの存在を多くの市民に知ってもらうための工夫や、②私たちが毎日利用しているスクールバスの活用についても工夫できないものでしょうか。</p> <p>③この提案を踏まえて、市の公共交通の利用状況と今後の計画等について教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

平成 25 年 12 月 20 日

大仙市立西仙北中学校 2年 氏名 佐々木 光

2年 氏名 大塚 美優

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○文化財の周知に関することについて	<p>大仙市には、国宝をはじめ、貴重な文化財が保存され、受け継がれています。市でも、ホームページなどで紹介して広報活動に取り組んでいます。</p> <p>そこで、①世代を超えて参加できるシンポジウムなどの開催や、②小・中学生が観光案内板を作成して、観光客の案内役を務めたり歌や演奏を発表したりして文化財を積極活用することを提案しますが、いかがでしょうか。</p>

上記のとおり通告します。

平成25年 12月 20日

大仙市立中仙中学校 2年 氏名 藤田 隼平  
2年 氏名 高橋 悠菜

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○地域の福祉や高齢者支援に関わることについて	<p>近年、全国的に独居老人が増えていることが問題になっています。中には孤独死に至ってしまうケースもあるようです。私たちの大仙市も少子高齢化が進み、例外ではなくなっていると聞きます。</p> <p>そこで、①小・中学生などが定期的に一人暮らしのお年寄りの家を訪問する「大仙みまもり隊」をつくることができないかと考え、この活動が実現可能かどうかお聞きします。</p>

上記のとおり通告します。

平成 25 年 12 月 20 日

大仙市立豊成中学校 2年 氏名 池田 さやか  
1年 氏名 相馬 啓人

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○スポーツや文化に関することについて	<p>最近、大仙市には高校や大学の野球部などが夏合宿に訪れ、地域でスポーツ教室を実施してくれます。また、「こころのプロジェクト『夢の教室』」で、プロのスポーツ選手と触れ合う機会もあります。</p> <p>そこで、①「こころのプロジェクト『夢の教室』」の規模を拡大し、多くの生徒や地域の方々も参加できるようにしてもらいたい。</p> <p>また、②国内外で活躍しているトップアスリートを招き、スポーツ交流会などを開いていただくことはできないでしょうか。これからの計画や未来像について教えてください。</p>

上記のとおり通告します。

平成 25年 12月 20日

大仙市立協和中学校 2年 氏名 小山田有希  
1年 氏名 茂木佳奈子

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○ごみに関することについて	<p>現在大仙市では、小・中合同でクリーンアップを行ったり、各校で資源回収やREVOプロジェクトに取り組んだりしています。</p> <p>よりいっそう美しく、観光客にも喜ばれる街にするため、①中学生が中心になって大仙市民みんなでごみ拾いをすることを提案します。</p> <p>また、これからの②市民参加による環境保全活動に関する予定や計画について教えていただきたいと思います。</p>

上記のとおり通告します。

平成 25 年 12 月 20 日

大仙市立仙北中学校 2年 氏名 小林 成輝  
2年 氏名 本間 紫苑

大仙市中学生議会 議長 様

# 一般質問発言通告書

平成25年12月24日

午前10時00分 受付

発 言 事 項	発 言 要 旨
○除雪に関することについて	<p>私たちは冬になると、歩いて登下校します。すると、歩道の除雪が不十分であったり、除雪がされていなかったりして、多くの小・中学生や住民の方々が困っています。また、歩道のない道では、幅が狭く車との距離が近くなるので非常に危険です。</p> <p>そこで、①車道と歩道の両方をしっかり除雪すること、②歩道を整備し安全な通学路をつくることを要望します。</p>

上記のとおり通告します。

平成 25年 12月 20日

大仙市立太田中学校 2年 氏名 小松 美結  
1年 氏名 高橋 大翔

大仙市中学生議会 議長 様

## <開会式>

### ◆ 橋村 誠 大仙市議会議長あいさつ



皆さん、こんにちは。大仙市議会議長の橋村誠と申します。

「中学生議会」の開催にあたり、ごあいさつを申し上げます。

本日は、市内11中学校の代表である24人の中学生議員の皆さん、たいへん寒い中、また冬休み期間の貴重な中、ようこそお越しくださいました。市議会を代表いたしまして歓迎申し上げます。

また、傍聴席には保護者の皆さんをはじめ学校関係者など多くの市民の方々からお集まりいただき、「中学生議会」が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

さて、皆さんが本日お集まりのこの場所は、大仙市議会の本会議場というところです。私たち市議会議員が市民を代表して、大仙市をさらに良くしていこうという思いから、市が行う様々な事業などに質問や提案を行い、決定する場所でもあります。したがって、大変重要で厳格な場所でもあります。

本日は、私たち市議会議員に代わって、将来を担う中学生議員の皆さんが、同じ場所で、市議会と同じような方法で、大仙市のまちづくり、福祉、教育文化など身近な問題について質問していただき、さらに大仙市の将来についての夢を語っていただけるということで、たいへん楽しみにそして意義深く感じているところであります。

「中学生議会」は、大仙市として、今回が初めての開催であります。本日参加されております中学生議員の皆さんには、どうか今日のこの議会をきっかけに、市議会のしくみやそのやり方、そして市役所の仕事などについて、実体験を通して知っていただき、理解を深めていただければうれしく思います。

市議会といたしましても、皆さんから出された意見や提案を、今後の大仙市のまちづくりの参考とさせていただきます。

結びにあたりまして、本日の中学生議会が、参加されているお一人おひとりにとって、貴重な体験の場となりますことを祈念申し上げましてあいさつといたします。

皆さん、元気いっぱい頑張ってください。終わります。



# ＜中学生議会＞

平成26年大仙市中学生議会会議録第1号

平成26年1月9日（木曜日）

議事日程第1号

平成26年1月9日（木曜日）午後1時開議

- 第1 議席の指定
- 第2 会議録署名議員の指名
- 第3 会期の決定（1日間）
- 第4 一般質問

出席議員（24人）

1番 伊藤 徹	2番 渡邊 さくら	3番 阿部 駿汰
4番 田口 愛菜	5番 寺田 信	6番 照井 毬乃
7番 小場 心愛	8番 谷屋 開陸	9番 三浦 優人
10番 佐々木 光	11番 大塚 美優	12番 藤田 隼平
13番 高橋 悠菜	14番 池田 さゆか	15番 相馬 啓人
16番 小山田 有希	17番 茂木 佳奈子	18番 小林 成輝
19番 本間 紫苑	20番 伊藤 栞	21番 小松 美結
22番 高橋 大翔	23番 大槻 悠也	24番 伊藤 真央

欠席議員（0人）

説明のため出席した者

市長 栗林 次美	副市長 久米 正雄
副市長 老松 博行	教育長 三浦 憲一
代表監査委員 福原 堅悦	総務部長 元吉 峯夫
企画部長 小松 英昭	市民部長 山谷 勝志
健康福祉部長 今田 秀俊	農林商工部長 佐々木 誠治
建設部長 田口 隆志	上下水道部長 小松 春一
病院事務長 伊藤 和保	教育指導部長 小笠原 晃
生涯学習部長 佐藤 裕康	

議会事務局職員出席者

局長 木村 喜代美	参事 伊藤 雅裕
主幹 堀江 孝明	副主幹 田口 美和子
主査 佐藤 和人	

午後1時00分 開 会

○議長（伊藤真央） 皆さん、こんにちは。



先ほどご紹介をいただきました、議長の南外中学校の伊藤真央と、副議長の大槻悠也さんです。私たちのまち大仙市が希望に満ちた住みよいまちになるように、今日の中学生議会をがんばりたいと思いますので、中学生議員の皆さんのご協力をお願いいたします。

また、本日は、市長さん、市議会議長さんをはじめ、多くの関係者の皆さんにご出席をいただき、ありがとうございました。

それでは、ただいまより、平成26年大仙市中学生議会を開会いたします。

市長さんから招集の挨拶があります。栗林市長さん。

【栗林市長 登壇】

○市長（栗林次美） 皆さんこんにちは。大仙市長の栗林次美です。

今日は市議会の提案によりまして、大仙市と教育委員会が共催する形で、大仙市として初めての中学生議会であります。未来を担う中学生の皆さんから議員としてご参集をいただきまして、誠にありがとうございます。この中学生議会は、「大仙市の将来を考える」というテーマのもと実施されております「中学生サミット」での取り組みを踏まえまして、中学生の皆さんが議員となって、現在通常行われております市議会と同じ形式で開催されるものであります。中学生の皆さんが普段から考えていることや、こうあるべきであるといった問題意識は、今後の私たちのまちづくりを進めていく上で大変重要な意味を持っていると思っております。本日の中学生議会が大仙市の未来を考える有意義な場となりますことを心から期待し、招集のあいさつとさせていただきます。



本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【栗林市長 降壇】

---

○議長（伊藤真央） これより本日の会議を開きます。

---

○議長（伊藤真央） 本日の議事は、議事日程第1号をもって進めます。

---

○議長（伊藤真央） 日程第1、議席の指定を行います。議席は、議長において指定いたします。議席番号と氏名を職員の方に読みあげていただきます。

（事務局職員 議席番号、学校名、氏名を読み上げる）

○議長（伊藤真央） ただいま、読みあげていただいたとおり、議席を指定いたします。

日程第2、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、議席番号1番、大曲中学校、伊藤徹さん、3番大曲西中学校、阿部駿汰さん、5番大曲南中学校、寺田信さん、以上3名の方々をお願いいたします。

---

○議長（伊藤真央） 日程第3、会期の決定を議題といたします。お諮りいたします。中学生議会の会

期は、本日1日といたしたいと思えます。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(伊藤真央) ご異議なしと認めます。よって会期は本日1日と決定いたしました。

○議長(伊藤真央) 日程第4、一般質問を行います。一般質問は通告書どおり、学校ごとに順次行います。順次、質問をお願いします。

最初に大曲中学校、1番伊藤徹さんと2番渡邊さくらさんをお願いします。

○大曲中学校(伊藤徹、渡邊さくら) はい、議長1番。はい、議長2番。

【大曲中学校 対面式演壇へ登壇】

○議長(伊藤真央) それでは質問をお願いします。

○大曲中学校(伊藤徹、渡邊さくら) 大曲中学校、伊藤徹です。総務部に防災に関する事を質問します。



東日本大震災や最近の風水害から、今後は確実な避難体制の確立が求められています。大曲中学校生徒会では、3年前から「復興支援交流活動」として大船渡市立赤崎中学校と交流活動を行っています。ヘルメットやプリンター、花、クリスマスリースなどを贈ったり、赤崎中の生徒を大曲中学校に招待しての交流会を開いたり、被災地の方々への心の支援活動を通して、同じ中学生としての思いを伝え合い、「絆」を深めていくことができました。

今年度からは、赤崎中学校だけでなく、赤崎地区の住民と地元若竹町を中心とした地域住民へとその輪を広げ活動をしています。10月3日には、3年生100名が赤崎地区仮設住宅の清掃ボランティアや赤崎地区住民運動会の再開を祝う108枚の万国旗を作成してきました。10月31日には、地域住民との合同防災訓練を行い、被災地の体験談から防災訓練の重要性を学びました。また、避難所開設や初期消火活動として、400人以上によるバケツリレー、消火器による消火活動、高所からの避難訓練、火災を想定した煙道体験、炊き出し訓練など、中学校区である若竹地区の住民と合同で行いました。この訓練を通して生徒からは、「初めてのことで難しかったが、万が一の時にはもっと早く行動して若竹地区の方々に貢献したい。」という感想や、参加した住民からは「自分の身を守るのは自分。災害はいつ起こるか分からない。今回の訓練で災害時にどう動くのかイメージすることができて、とても勉強になった。今後も定期的に訓練を続けていくことや防災資材を十分に備えておくことの重要性を感じた。」という声があがりました。

このように、被災地の住民や中学生との交流、若竹地区の方との合同防災訓練を通して、防災に対する意識が高まり、防災訓練の必要性を強く感じました。

これからは私たちの住む大仙市を、子どもから高齢者の方まで多くの市民が助け合い、防災意識を高くもち、備えのある安心なまちにしていきたいと思えます。

そこで、大仙市では高齢者や支援が必要な方の避難対策として、どのようなものがあるか、防災設備、備蓄の現状はどのようになっているのか質問します。そして、多くの市民が防災意識を高めるために、年に1回「大仙防災デー」を設け、避難所である中学校で住民と中学生が合同の訓練をすることを提案します。質問と提案についてお答えください。どうぞよろしくをお願いします。

○議長(伊藤真央) 質問が終わりました。答弁をお願いします。元吉総務部長さん。

【総務部長 登壇】

○**総務部長（元吉峯夫）** それでは大曲中学校の伊藤さん、渡邊さんのご質問にお答えします。

はじめに、高齢者や支援が必要な人々の避難対策についてでありますけれども、災害が発生した場合、全ての被災者が支援を必要とする状態になりますが、特に、高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、外国人等の、支援がなければ自力で避難できない方々を地震や風水害等から守るために、大仙市では「災害時要援護者避難支援プラン」という計画を策定しています。

具体的には、支援が必要な高齢者、障がい者の方々のリストを作成し、この内、家族以外の支援がなければ避難できない方々については、避難支援者や支援方法、かかりつけの医療機関、常備薬などを記載した個別計画を作成し、本人や家族、大仙市、避難支援者で情報を共有しています。

また、大仙市、消防団、自主防災組織、町内会等は、防災だけではなくて、声かけ・見守り活動や地域の各種活動を通じて人と人との繋がりを深め、地域ぐるみの避難体制を整備しています。さらに、災害時には警察、消防、保健所などの行政機関や社会福祉協議会、民生委員などと協力して援護の必要な方々の支援にあたっています。

次に、防災設備と備蓄についてですが、防災設備については、東日本大震災を教訓として、非常用発電機や給水車、衛星携帯電話、被災者が避難所で使用するための特設公衆電話を準備するなどの対策を行っています。建物に関しても、避難所となる小中学校などの公共施設の耐震化工事を実施したほか、広い範囲で長期にわたる停電に強い避難所とするため、市内の温泉施設や中学校に太陽光発電システムやヒートポンプシステムの設置を進めています。備蓄については、秋田県と共同の計画を立てて、大仙市における避難者を約2,000人と想定し、その方々が3日間過ごせる物資を目安として、お湯を入れるだけでご飯が食べられるアルファ米、飲料水、粉ミルク、毛布、石油ストーブ、簡易トイレ、医療品など約20種類を、秋田県と大仙市が、各々半分ずつ備蓄しています。また、市内各地域12箇所に分散して備蓄し、災害時のリスクを軽減できるようにしています。さらに、イオンやタカヤナギさんなどの民間の大型スーパーと応援協定を結んで、必要なときに優先的に物資を提供していただく体制を整え、各家庭にも備蓄をお願いしています。

次に、「大仙防災デー」の設定についてですが、大仙市では、各地域を持ち回りで年1回総合防災訓練を行っています。去年は、5月28日に協和地域で、住民の方々や自衛隊、秋田県、大仙警察署や民間企業など29の機関や団体、約800人が参加して行われ、協和中学校と協和小学校の皆さんも参加しています。訓練の内容は、災害対策本部を設置しての情報伝達訓練、避難所の開設訓練、倒壊した建物からの救出訓練、ヘリコプターによる水難救助訓練、土砂災害を想定した救出、救護訓練などです。平日に実施されますので、全ての中学生の皆さんが参加することは難しいと思いますが、近隣で実施される場合は是非参加をお願いします。

ご提案のあった「大仙防災デー」の設定については、少し研究してみたいと思いますが、去年の平和中学校や大曲中学校、神岡小学校のように各学校ごとに、地域の人々と一緒に実施する防災訓練を独自に企画するのも大変意義のあることだと思います。是非、各学校と町内会、そして大仙市の防災担当者と相談をしていただいて、学校と地域が一体となった防災訓練を今年も計画していただきたいと思います。こうした防災訓練が市内の各地域で、必ずしも統一した日にちでなくても、毎年行われることも大切なことではないかというふうに思います。

【総務部長 降壇】

○**議長（伊藤真央）** 再質問はありませんか。

○**大曲中学校（伊藤徹、渡邊さくら）** はい。

○**議長（伊藤真央）** はい、再質問をお願いします。

○大曲中学校（伊藤徹、渡邊さくら） はい。



先ほどは答弁ありがとうございました。私たち中学生が大仙市の防災のためにできることがありましたらアドバイスをいただきたいと思えます。よろしくお願いします。

【栗林市長 登壇】

○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。栗林市長さん。

○市長（栗林次美） 再質問に対するお答えをいたします。

はじめに、東日本大震災の後の皆さんや皆さんの先輩、後輩達が、それぞれの立場被災地・被災者の支援に頑張っていたことに対しま

して、心から感謝を申し上げます。

平成23年5月12日、大仙市の第15次救援物資輸送隊が大船渡に向けて出発し、その当時大曲中学校生徒会長さんを代表に、中学生サミットから預かったヘルメット88個やタオルなどを大船渡市立赤崎中学校に届けました。これが、最初の中学生による支援活動でありました。その後、太田中学校は大槌中学校と、平和中学校は大槌町吉里吉里地区の方々と、また、中仙中学校は気仙沼市立小原中学校と、南外小・中学校は南三陸町の志津川小・中学校との交流活動を行って来ました。「絆プロジェクト」として、市内から集めた312冊の本の寄贈もありました。

また、震災直後の3月末、大仙市PTA連合会が「ランドセルを被災地に贈ろう」と呼びかけましたが、わずか1週間ほどで、市内から500個ものランドセルが寄せられ、届けられております。

皆さんが小学生の時に遭遇した日本観測史上、最大の被害となった東日本大震災は、私たちに数々の教訓を与え、様々な課題を残しました。

大仙市でも震度5強を観測し、停電や断水、燃料・日用品の不足が発生したことは、皆さんも記憶に残っていることと思います。国や県は、避難所の運営のあり方や長期停電への対応、行政機能の存続方策、放射能汚染への対応などに関して法律を改正したり、災害対策の根本的な見直しを進めております。

大仙市でも現在の地域防災計画を7年振りに大幅に改正し、今年3月には公表することとしております。また、市民の安全・安心のため「災害に強いまちづくり」を目指し、自主防災組織や防災士・防災ボランティアの育成などを積極的に進めております。

防災のためのアドバイスということですが、皆さんが東日本大震災で体験したこと、今も続けている各学校の交流活動について後輩達、そして家族の皆さんに伝えていくことが大変大事だと思います。特に、交流活動を通じて勉強した、同世代の被災地の中学生が何に悩み、どのようにしてその悩みを解決してきたかを思い出し、伝えることが大切だと思います。また、先ほど各学校で行う防災訓練について述べさせていただきましたが、その訓練の時に、真剣に中学生として何ができるかを体で覚え、先生方の教えを素直に聞き、地域の方々を大切にする心を育て、今後の日常生活に役に立ててもらいたいと思います。最後に、各学校の被災地との交流が皆さんにとっても実りあるものとなりますことをお祈りいたします。

【栗林市長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて大曲中学校、1番伊藤徹さんと2番渡邊さくらさんの一般質問を終わります。

【大曲中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 次に、大曲西中学校、3番阿部駿汰さんと4番田口愛菜さんをお願いします。

○大曲西中学校（阿部駿汰、田口愛菜） はい、議長3番。はい、議長4番。

【大曲西中学校 対面式演壇へ登壇】

○議長（伊藤真央） それでは質問をお願いします。

○大曲西中学校（阿部駿汰、田口愛菜） 大曲西中学校、阿部駿汰です。企画部に国際交流に関することについて質問します。



私たちの大仙市では、国際教養大学との小・中学生の交流や、オーストラリアへの中学生派遣、韓国との青少年交流などにも取り組んでいます。大曲西中学校でも、この交流活動や派遣事業に参加させていただき、国際交流の楽しさや重要性を感じています。同時に、日本語が通じない中でコミュニケーションを図っていくことへの抵抗感をなくし、生の英語を理解し、質問に答えていくための英語力をもっと高めていく必要性も感じています。また、最近では、小学校でも外国語活動などで外国の人たちと関わる機会も増え、国際的に活躍できる人づくりが大切になっています。そして、国では、小学校の英語の教科化を進める動きもあります。

秋田県では、英語力日本一をめざして、イングリッシュキャンプなども行われています。

このような国や県の動きに連動して、大仙市でも、「国際交流の機会があるまちづくり」をさらに進めていくことが必要だと思います。

そこで、留学生や大仙市のALTの先生方や、私たちと年齢が近い外国の中学生と実際に交流する機会の充実に関して、今後の市の計画について質問します。

○議長（伊藤真央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。小松企画部長さん。

【企画部長 登壇】

○企画部長（小松英昭） それでは大曲西中学校の阿部さんと田口さんのご質問にお答え申し上げます。

質問の内容は国際交流に関することでもあります。大仙市は韓国の唐津市という都市と平成19年に「友好交流都市」を結びまして、これまで中学生の相互交流として、夏休み期間中にホームステイなどを内容とした4泊5日の交流を実施しているほか、スポーツ交流事業なども行ってございます。さらに、異文化理解を広めるため韓国出身の国際交流員CIRを配置いたしまして、韓国文化理解講座や出前講座なども実施しているところでございます。

交流事業や講座等の参加者からは、一番近い外国、韓国との交流により、韓国の文化・風習・習慣を体験することができ、国際的視野を広めるのに役立ったとの声が寄せられておりまして、今後も国際化時代にふさわしい人材の育成のため、この韓国唐津市との交流を進めてまいりたいと考えてございます。

このほか、市役所に事務局を置く大仙市国際交流協会では、韓国ラボ交流事業を行っておりまして、今年で10年目を迎えております。ラボというのは、会員の大学生が企画・運営をし、ダンスや演劇・歌による言語学習と異文化交流を行う団体で、国際交流協会では、毎年夏休み期間中にスタディツアーとして市内の小中高生を募集いたしまして、7泊8日の日程で8名前後が参加して交流を行っており、冬には逆に大仙市に来てホームステイをしながら学校交流や日本文化などを体験していただいております。今年も1月23日から7泊8日の日程で8名の小中学生と引率者2名が当市を訪れる予定となっております。

また、教育委員会では、日本と異なる文化に触れる海外渡航経験を通して国際感覚を養うとともに、国際理解を深め、将来の地域振興に寄与する人材の育成を図ることを目的に、平成17年度から、毎年

中学生20名をオーストラリアへ派遣いたしております。10日間程度の期間に、ファームステイや現地の生徒との交流、自然体験、文化施設等の見学などを行い、帰国後にはそれぞれ研究テーマに基づくレポートを作成し報告を行っていただいております。参加希望者は年々増えている状況でありまして、意欲的な参加者が一回りたくましくなって帰国し、その感動、経験を多くの方々に語り伝えてくれることで、この事業の価値が高まっておりまして、平成26年度も継続して実施する予定であります。なお、今年度でありますけれども、ただ今派遣中でありまして、明日帰国する予定となっております。

また、教育委員会では7名の外国語指導助手ALTの先生や、オーストラリア出身の国際交流員1名も配置いたしております。小学校の外国語学習や市の国際交流に関するイベントなどのほか、依頼に応じては文化講座等にも協力するなど、子どもたちだけではなく多くの市民との触れ合いに対応していただいております。

さらに、市では国際教養大学の留学生との交流にも積極的に取り組んでおります。平成21年に「国際交流に関する連携プログラム協定」を結び、世界各国から訪れる留学生と市内幼稚園・保育園、小学校、中学校の園児、児童生徒との交流により双方の文化を体験する機会を創出して、これまでほとんどの小・中学校で交流を実施しており、年間延べ300人前後の留学生の方と貴重な交流が行われております。今後も、さまざまな国の方とお話をしたり、異文化を体験したりする機会をさらに充実してまいりたいというふうに考えてございます。以上で答弁を終わらせていただきます。

【企画部長 降壇】

○議長（伊藤真央） 再質問はありませんか。

○大曲西中学校（阿部駿汰、田口愛菜） はい。

○議長（伊藤真央） はい、再質問をお願いします。

○大曲西中学校（阿部駿汰、田口愛菜） 年齢が近い外国の人と交流できるとしたら、どこの国の人とどのような交流が可能ですか。限られた学校だけではなくより多くの学校から参加できたらいいと考えます。また、留学生や大仙市のALTの先生方の交流活動がわかれば、私たちも自主的に参加できると思います。事前に教えていただくなどの協力をお願いすることは可能でしょうか。



○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。栗林市長さん。

【栗林市長 登壇】

○市長（栗林次美） 阿部さんと田口さんの再質問に対してお答えを申し上げます。

先ほど企画部長から韓国唐津市との相互交流、そしてオーストラリアへの中学生の派遣については説明をさせていただきました。当面大仙市としてはこの2つの国のルートで色々交流を深めていきたいというふうに考えております。

次に、留学生やALTの先生との交流についてですが、留学生は、勉強を基本として1年間留学しております。国際教養大学の場合であります。また、ALTの先生は皆さんへの英語指導を目的にしておりますので、個人での交流活動は難しいと考えられます。しかし、市内で開催されます各種国際協会が主催するフェスティバルや大仙市国際交流協会事業を通じた様々な交流会等に、事前に留学生やALTの先生が参加することが分かれば、何らかの方法で皆さんにお知らせしたいと思っております。そうした中で交流を深めていただきたいと思います。また、日本語を勉強している在住の外国人の方々、日本語教室を通しての交流については可能と思われまますので、皆さんからも積極的に交流をアプローチしていた

だけだと思います。

【栗林市長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて大曲西中学校、3番阿部駿汰さんと4番田口愛菜さんの一般質問を終わります。

【大曲西中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 次に、大曲南中学校、5番寺田信さん、6番照井毬乃さん、7番小場心愛さんをお願いします。

○大曲南中学校（寺田信、照井毬乃、小場心愛） はい、議長5番。はい、議長6番。はい、議長7番。

【大曲南中学校 対面式演壇へ登壇】

○議長（伊藤真央） それでは質問をお願いします。

○大曲南中学校（寺田信、照井毬乃、小場心愛） 建設部に公園等の維持管理に関することを質問します。



私たちが住む大曲南地区では、小・中学校が連携して環境学習や環境保全活動に取り組んでいるところです。私たち南中生も、角間川小学校、藤木小学校で、川や田んぼの水質調査や体験活動を通して、地域の環境について学習してきました。

また、地域の環境保全の一環として、大仙市のチャレンジデーや中学生とPTAが協力して、川港親水公園のクリーンアップや花壇の花植えなどをして、環境整備にも取り組んできました。

しかし、親水公園の川の水はヘドロで汚れ、なかなかきれいになりません。清掃回数を増やしたり、専門の方に取除いてもらったりすることも必要なほどです。親しんできた地域の公園を、今後も地域の方々と協力し整備していくことで、子どもたちが自然と触れ合ったり、安心して遊ぶことのできる公園にしていきたいと考えています。将来的には、川を中心にビオトープ作りをし、自然に詳しい地域の方を講師とした自然観察会を行うなどしてはどうでしょうか。そうすることで、本来の目的である地域のための親水公園になってほしいと願っています。

このように、大仙市内の各地域の公園も同様に整備していくことで、将来に向けて自然環境を保全する意識も高めることができると思います。

そこで、市内の公園等の環境整備の現状と計画について教えてください。よろしくをお願いします。

○議長（伊藤真央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。田口建設部長さん。

【建設部長 登壇】

○建設部長（田口隆志） それでは大曲南中学校、寺田さん、照井さん、小場さんの質問にお答えいたします。

はじめに、小・中学校一体となった環境学習や環境保全活動への取り組み、地域の一員としての環境整備への参加など、日頃からの活動に感謝を申し上げます。

さて、毎年クリーンナップなどご協力をいただいております川港親水公園は、国が管理する旧横手川河川敷を利用した公園の整備を目的に、平成元年に国が整備に着手し、旧大曲市が平成3年から公園整備を進め、平成5年4月に一部利用をスタートし、平成9年4月には全区域が利用できるようになっ

ております。公園内の水路は、横手川の河川水を利用してありますが、その「しくみ」がうまく機能しないこと、周辺からの生活排水が流入していることなどから、水質が悪化し、夏場の悪臭水など公園利用者や周辺地域の皆様にご迷惑をかけております。

これまで、国にはポンプの改善など導水対策に努力していただいておりますし、市でも流入する生活排水の処理の検討を進めております。また、「親水公園を愛する会」の活動や、大曲南中学校生徒を含めた地域の方々の清掃活動などの努力のおかげで、効果は少しずつ出てきております。市では、これまで以上に排水対策に力を入れ、地域の協力をいただきながら、地域が誇れる公園を目指してまいりたいと考えております。そして、将来は自然観察もできるように、一層親しまれる「親水公園」づくりを目指し、学校や地域の活動をサポートしてまいりたいと考えております。

次に、市内の公園の管理についてでございますけれども、「大仙市公園条例」に基づいて管理を行っております。条例では、公園の特性に応じ7種類の公園に分類しておりますが、全体で101箇所、全面積で約432万平方メートルの公園を管理しております。各公園の管理の現状でございますが、公園の特性に応じた管理体制としております。公園の周辺に多くの市民が住んでいる比較的小さい公園につきましては、花壇の手入れやゴミ拾いなど地域で行えるような日常の管理は地域にお願いし、地域では困難な遊具や樹木の管理などについては市が行っております。また、野球場など運動施設と一体となっているような公園は、運動施設とあわせ民間の会社などに管理をお願いしている公園もあります。自然を利用した大きな公園につきましては、市の管理を基本としております。

市では公園等について、「新たにつくること」から「今ある資源の有効活用」を基本理念とした、市内の公園などの管理運営そして環境整備の基本方針をつくりたいと考えております。「市民との協同、地域の参画」に力をいれたものにしたいと思っております。今後皆様のご意見を伺う機会もでてくるかと思っておりますので、積極的にご参加をお願いいたします。以上でございます。

【建設部長 降壇】

○議長（伊藤真央） 再質問はありませんか。

○大曲南中学校（寺田信、照井毬乃、小場心愛） はい。

○議長（伊藤真央） はい、再質問をお願いします。

○大曲南中学校（寺田信、照井毬乃、小場心愛） 環境整備の計画のお話がありましたが、私たち小・中学生にも協力できることがあれば、教えていただきたいと思っております。



○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。久米副市長さん。

【久米副市長 登壇】

○副市長（久米正雄） 再質問にお答え申し上げます。

私たちの住む大仙市のこの豊かな自然は、市民一人一人の誇りであり、次の時代に引き継いでいかなければならないというふうに考えております。そのためにも、皆さんが小学生のときから取り組んでいるような、この地域の環境について学び、積極的に情報や意見を発信することが大切だというふうに考えております。

市やそれぞれの地域でも、公園等を維持管理するためにゴミ拾いなどの活動呼びかけていきたいというふうに思います。そこで皆さんには、そのような活動について、これまで以上に主体的に参加をしていただきたいと思います。さらには、中学生である皆さん自身が考え、企画したものに、地域住民の参加を呼びかけるなどしまして、地域を巻き込む環境保全活動を展開してほしいというふうに思います。

中学生を中心とした若者が地域へ働きかけることは、これからのまちづくりにとって、とても大切なことだと思います。そして、また、皆さんの子どもや孫の世代にも、この美しい公園が至る所に存在する大仙市であり続けてほしいというふうに心から願っているところでもあります。よろしく願いいたします。

【久米副市長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて大曲南中学校、5番寺田信さん、6番照井毬乃さん、7番小場心愛さんの一般質問を終わります。

【大曲南中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 次に平和中学校、8番谷屋開陸さんと9番三浦優人さんをお願いします。

○平和中学校（谷屋開陸、三浦優人） はい、議長8番。はい、議長9番。

【平和中学校 対面式演壇に登壇】

○議長（伊藤真央） それでは、質問をお願いします。

○平和中学校（谷屋開陸、三浦優人） 平和中学校の谷屋開陸です。農林商工部に大仙市の活性化について質問します。



市のホームページによると、市の人口は平成23年度、89,290人。平成24年度、88,219人。平成25年11月現在87,865人と減少の一途をたどっています。平成17年の国勢調査では93,352人だったものが、8年あまりで5,500人ほど減っているのです。

また、日本全国がそうであるように、大仙市でも少子高齢化が進んでいます。秋田県の高齢化率が31.4%に対して、大仙市は33.2%と上回っており、今後の活性化が懸念されます。その上、平成25年の市政評価によると、雇用や観光振興などにおいて評価が低いことが示されました。

れました。

私たち中学生は、未来の大仙市をつくる担い手です。私たち若者がずっと住み続けられる活気ある、そして、今以上に魅力あるまちづくりを展開していきたいと考えます。

そこで、大仙市の基幹産業の1つである農業を大切にしながらも、若者が働くことのできる企業の誘致拡大や、花火を生かした市の宣伝を行うとともに、大仙市の「ゆるキャラ」を作成するなどして、より大仙市を全国へアピールしてはどうでしょうか。この提案について、現状と今後の計画を教えてください。

○議長（伊藤真央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。佐々木農林商工部長さん。

【農林商工部長 登壇】

○農林商工部長（佐々木誠治） それでは平和中学校の谷屋さん、三浦さんのご質問にお答え申し上げます。

はじめに、企業誘致の現状についてですが、市町村合併から現在までの実績は、新規の企業誘致が3社、工場等を増設した市内企業が13社となっております。現在、全国的には景気が上向きつつあると言われておりますが、大手企業の海外移転、電力料金の値上げなどによりまして、地方では重要な勤め先であります製造業などの企業が、日本国内で事業を行う環境は依然として厳しく、大仙市内でも事業を縮小したりやむを得ず撤退したりした企業もありました。市では、こうした経済状況ではありますが、

市内でがんばっている企業に対し、雇用を維持してもらうための取り組み・援助、新規企業の誘致と合わせまして、行っております。

企業誘致が実現するには、長い時間の交渉や進出する企業にとっても大きな決断が必要となります。今後も引き続き、可能性のある企業訪問や、市や県が首都圏の企業関係者を招いて開催するセミナーなどにおいて、大仙市のPRと情報収集に努め、進出を検討する企業に積極的に働きかけてまいります。

農業分野に関しましては、近年は農業を一生の職業としたいという若い人が多く出てきておりますので、市では栽培技術の習得と、農業を志す若者の研修・交流の場として太田地域と西仙北地域の2箇所に「新規就農者研修施設」を設置しております。そこでは将来の大仙市農業を担う、若い方々の育成を図っており、現在、2つの施設で19名が就農に向けて研修に励んでおります。特に今年度開所しました西仙北地域の研修施設は、学校統合で使われなくなった旧西仙北西中学校の寄宿舎と校舎周りの土地を有効に活用した研修施設であります。

次に、花火を生かした市の宣伝を行うことについてですが、大仙市では、市内のいたるところで毎月のように花火が打ち上がります。その中で、8月の第4土曜日に開催されている全国花火競技大会「大曲の花火」は、100年以上も歴史がある花火大会で、毎年全国から70万人を超える来場者を迎え、全国から選抜された一流の花火師たちが日本一の座を目指し、その持てる技を競い合う国内で最も権威ある花火大会となっています。

市では、この「大曲の花火」をはじめ、国指定名勝の「旧池田氏庭園」や「真木真昼自然公園」など自然・文化・歴史・食・温泉等にも恵まれていますので、この地域の優れた観光素材を人の知恵と工夫により、次代のニーズに対応した観光資源として魅力を高めて、交流人口、大仙市を訪れる人の増加を図っていききたいと思います。

次に、大仙市の「ゆるキャラ」を作成し、全国にアピールするという提案についてですが、皆さんが全部知っているかわかりませんが、実は市内の各地域には様々な「ゆるキャラ」があります。大曲の花火公式キャラクターである“つつどんとたまちゃん”をはじめ、少年野球発祥の地である神岡のイメージキャラクター“だけ丸くん”。ドンパン節発祥の地中仙の“ドンパンじっちゃん”。全国ジャンボウさぎフェスティバルマスコットキャラクター“デカラビ君”と“デカラビ子ちゃん”。太田町国見ささらの公式キャラクターである“ささ太くん”。以上、合わせまして6体の「ゆるキャラ」は各地域のイベントで活躍しているほか、昨年11月23日には、東京の有楽町駅前におきまして、大仙市で初めてのPRイベント、「大仙市ふるさとフェア」を行い、沢山のお客さんで賑わいました。その会場に、大仙市をPRする「ゆるキャラ」として、この6体に登場してもらい、各地から来場したお客様との交流を図ってきました。現在、全国各地で「ゆるキャラ」を活用したPRを行っておりますが、大仙市においても、6体の「ゆるキャラ」を効果的に活用し、全国に大仙市をアピールするとともに、観光客を“おもてなし”の心で迎え入れることができるよう、皆さんと一緒に頑張ってもらいたいと考えています。終わります。

【農林商工部長 降壇】

○議長（伊藤真央） 再質問はありませんか。

○平和中学校（谷屋開陸、三浦優人） はい。

○議長（伊藤真央） はい、再質問をお願いします。

○平和中学校（谷屋開陸、三浦優人） “だけ丸くん”や“つつどん”などの旧市町村の「ゆるキャラ」ではなく、大仙市全体の「ゆるキャラ」を作ってみてはいかがでしょうか。



○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。久米副市長さん。

【久米副市長 登壇】

○副市長（久米正雄） 再質問にお答え申し上げたいと思います。

今後この大仙市全体で「ゆるキャラ」やPR用のマスコット等を作成する場合には、中学生の皆さんをはじめ、広い世代、多くの市民の皆さんのアイデアやデザインを提案できるような仕組み、システムを考えていきたいというふうに思います。この募集の際には中学生の皆さんからの斬新なアイデアをひとつお願いしたいというふうに思います。

また、郷土愛に満ちあふれた強いメッセージ性のある「ゆるキャラ」以外にも、大仙市の観光振興を推進するために「まちと人と自然の融合のまちづくり」、それから「美と伝統の融合するまちづくり」、それから「もてなしの心があふれる温かいまちづくり」というこの3つを基本方針に掲げまして、官民一体となって計画的にがんばって参りたいと考えておりますので、どうかよろしくをお願いします。

【久米副市長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて平和中学校、8番谷屋開陸さんと9番三浦優人さんの一般質問を終わります。

【平和中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 次に西仙北中学校、10番佐々木光さんと11番大塚美優さんをお願いします。

○西仙北中学校（佐々木光、大塚美優） はい、議長10番。はい、議長11番。

【西仙北中学校 対面式演壇に登壇】

○議長（伊藤真央） それでは質問をお願いします。

○西仙北中学校（佐々木光、大塚美優） 西仙北中学校、佐々木光です。企画部に大仙市の交通網に関することを質問します。



私たちの住む大仙市では、市民バスや乗り合いタクシーが通り、住民の交通を助けています。このため大仙市が交通網の整った便利で豊かな市になっていると思います。

しかし、私はこのバスとタクシーが市内全域を走っているという事実を知りませんでした。住民の皆さんも私と同様、これほど多くのバスが通っていることを知らず、乗車する人も少なくなり、まちでは無人走行バスが見られることも多いのではないのでしょうか。私は、大仙市の交通網がしっかりと利用され、「お年寄りにもやさしく便利なまち」になることを望んでいます。

そこで、地域ごとに通っているバスの台数や利用時間を明確にし、多くの市民に知ってもらうための工夫や、私たちが毎日利用しているスクールバスの活用についても工夫できないのでしょうか。より多くの住民の皆さんがバスを利用するようになることで、触れ合う機会も増え、これまで以上に大仙市が「お年寄りにもやさしく便利なまち」になると思います。

この提案を踏まえて、市の公共交通の利用状況と今後の計画等について教えてください。よろしくをお願いします。

○議長（伊藤真央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。小松企画部長さん。

## 【企画部長 登壇】

○企画部長（小松英昭） それでは西仙北中学校、佐々木さん、大塚さんの質問にお答え申し上げます。

大仙市には、運転免許がないお年寄りや子ども達をはじめ、さまざまな事情で移動手段を持たない方々がおりまして、日常生活を送るための交通手段を必要としております。こういった方々の生活の足を確保するため、市では「地域で支え合う、長寿社会に対応した地域公共交通」の実現を目標として計画を策定をいたしまして、様々な取り組みを進めているところでございます。

日常生活の足となる公共交通手段には、鉄道をはじめ、バス会社が運行する路線バス、タクシー会社が行うタクシー事業や乗合自動車事業のほかに、市が直接行っているものもございます。このうち、予約により運行する乗合タクシーは、大曲、神岡、西仙北、協和、南外、仙北の合計6地域で運行をいたしております。また、決まった時間に決まったルートで運行するものとしたしては、西仙北や南外地域の市民バス、太田地域のコミュニティバス、大曲駅周辺を運行する循環バスがございます。さらに、皆さんの中にも利用している方がいらっしゃる方と思いますが、通学用のスクールバスというものもあります。市内にはこうした多種多様な公共交通手段が存在しております。この中で、路線バスについてでありますけれども、現在14路線ございます。平成18年からの7年間で13路線が廃止をされましたので、約半分になっているということでもあります。この原因は、各家庭にマイカーが普及、定着したことによるバス利用者の減少だと言われております。

このようなことを背景として市では、順次計画に基づいて、乗合タクシーや市民バスなどの導入を進めてまいりましたが、今でもなお公共交通による移動手段のない地域があることから、現在もその地域の交通手段をどうするのかについての検討が継続されております。

市内に張り巡らされている公共交通の路線は、路線バス等合わせて、全部で58路線となっておりますけれども、このうち、路線バス等については、残念ながら利用者が減少傾向にあります。しかしながら、乗合タクシーにつきましては、住民の方々に少しずつ広まってきておりまして、利用者が増加している状況であります。

質問にございます、多くの市民に知ってもらうための工夫についてでありますけれども、現在、路線バスに関しましては、バス会社が新聞に時刻表を折込んで配付しているほか、市で行っている乗合タクシーや市民バスなどに関しましては、市の広報にチラシを折込んで配付したり、各自治会や町内会などの会合の場にお邪魔をした際に、その場をお借りして、制度の説明を行ったりしております。さらに、昨年の4月からは市のホームページの中に公共交通のページを新しく設けまして、時刻表や路線図などを確認できるようにしておりますので、皆さんも機会がありましたら是非一度ご覧いただければというふうに思います。

今後は、公共交通の利用の仕方を紹介する映像を制作し、ホームページにアップするほか、各自治会や老人クラブなどの会合に直接出向きましてPRしてまいりたいというふうに考えております。

次に、スクールバスの活用についてでありますけれども、昨年度は神岡、西仙北、中仙、南外地域で合計19台で運行いたしております。運行にあたりましては、児童生徒の皆さんを安全に送迎することを第一の目的としていることなどから、現状では通院や買い物などを目的とする一般利用者がスクールバスを交通手段として活用することは難しい状況となっております。

しかしながら、将来的に少子高齢化や人口減少などにより、スクールバス車両に余裕が生まれれば、一般利用者が一緒に乗って交通手段とすることや、日中の送迎以外の時間、日中の空き時間を有効に活用することができるかなど、その効率的・機能的な運用の検討が必要になるものと思っております。

市では、今後も引き続き「地域で支え合う、長寿社会に対応した地域公共交通」の実現に向けまして、現在運行している公共交通手段が利用者にとってさらに利用しやすくなるよう改善を行うことで、利用の促進を図るとともに、公共交通手段のない空白地域をゼロにすることを目指して取り組みを進めてまいりたいと考えております。以上で答弁を終わります。

【企画部長 降壇】

○議長（伊藤真央） 再質問はありませんか。

○西仙北中学校（佐々木光、大塚美優） はい。

○議長（伊藤真央） はい、再質問をお願いします。

○西仙北中学校（佐々木光、大塚美優） 詳しいご答弁、ありがとうございました。次に公共交通の利用に関して、私たち中学生に協力できることを教えてください。お願いします。



○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。久米副市長さん。

【久米副市長 登壇】

○副市長（久米正雄） 再質問にお答え申し上げたいと思います。

この公共交通利用に関しまして、中学生の皆さんからご協力をいただけることに対しまして、大変心強く思っております。皆さんには、まずはただ今答弁申し上げました通り、大仙市には乗合タクシーや市民バス、コミュニティバスなど、様々な公共交通手段があることを知っていただきたいというふうに思っています。そして、そのうえで、皆さんの家族や友人、そして近所の方々など地域の方々に対しまして、皆さんのから市からの色々な公共交通に関する情報提供をしていただくことができれば、さらに利用促進につながるのではないかとこのように期待をしております。是非、皆さんのご協力をよろしくお願い申し上げます。

【久米副市長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて西仙北中学校、10番佐々木光さんと11番大塚美優さんの一般質問を終わります。

【西仙北中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 一般質問の途中ですが、暫時、休憩いたします。再開時刻は午後2時35分といたします。

休憩 午後2時16分

再開 午後2時33分

○議長（伊藤真央） 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。一般質問を続けます。次に中仙中学校、12番藤田隼平さんと13番高橋悠菜さんをお願いします。

○中仙中学校（藤田隼平、高橋悠菜） はい、議長12番。はい、議長13番。

【中仙中学校 対面式演壇に登壇】

○議長（伊藤真央） それでは質問をお願いします。

○中仙中学校（藤田隼平、高橋悠菜） 中仙中学校の藤田隼平です。生涯学習部に文化財の周知に関することを質問します。



私たちの住む大仙市にはすばらしい文化財がたくさんあります。秋田県唯一の国宝である水神社の銅鏡や、史跡の払田柵跡、刈和野の大綱引きや長野のささらなどの古くから受け継がれてきた無形民俗文化財、そして、八乙女城や檜岡城といった遺跡など市内各所に様々な文化財があります。

これらを、市ではホームページや広報などで特集を組んだり、生涯学習情報誌を編集するなどして、広報活動に積極的に取り組んでいます。また、来年度、秋田県で開催される国民文化祭に向けても、旧池田氏庭園で園遊会を行うなど様々な事業が予定されているようです。

こうした文化財に、より多くの市民が興味や親しみをもつことは、ふるさとのよさに誇りをもって生きることにつながるものだと思います。私たちは、この文化財をより積極的に活用することを提案します。具体的には、世代を超えて参加できるシンポジウムを開催したり、小・中学生が観光案内板を作成し、地域の文化財のワッペンやバッジを身に付けて観光客の案内役を務めたり、歌や演奏を発表したりするなどの取組を進めてみてはいかがでしょうか。

私たちのような若い世代が、文化財の価値をより深く知り、親しむことは、とても大切なことだと思います。この取組を行うことで、世代間の交流が増えて、地域のつながりが深まることで、今後の大仙市の発展にもつながっていくものと考えます。この提案について、お答え下さい。よろしくお祈りします。

○議長（伊藤真央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。佐藤生涯学習部長さん。

【生涯学習部長 登壇】

○生涯学習部長（佐藤裕康） それでは中仙中学校、藤田さん、高橋さんの質問にお答えいたします。

「文化財」は国や県、市町村が指定しているものだけではなく、私たちの長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日の世代に守り伝えられてきたもの全てを「文化財」ととらえることが大切だと思います。そして、現代に生きる私たちの使命は、「文化財」を見たり、調べたり、体験したりして、身近に触れて理解し、次の時代に守り伝えていくことであると考えています。

現在、市内には国指定、国登録の文化財が9、県指定が42、大仙市が指定したものが172、合わせて223の有形、無形の文化財があります。その中には、秋田県唯一の国宝で、中仙地域の皆さんが江戸時代から守ってきた平安時代の「線刻千手観音等鏡像」があります。また、西仙北地域の刈和野で500年以上も前から住民総参加型の民俗行事として伝えられてきた、国の重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」は、日本屈指の綱引き行事でもあります。その他の市内各地域の指定文化財につきましては、市のホームページで紹介していることをご存じのようではありますが、市内には指定文化財のほかにも、埋蔵文化財という、土の中に眠っている489箇所もの遺跡があります。

さて、ご提案いただいたシンポジウムの開催や、文化財を紹介する看板或いはワッペン、バッジの作成、そして文化財を訪れてくださる方々へのボランティアガイドについての取組み状況についてですが、中仙地域では、民俗芸能下黒土神楽や万蔵甚句の元唄や踊りなど、古くからのスタイルそのままの形で傳承しようと小学生の時から頑張っていますし、仙北地域の国の指定史跡払田柵跡では、1200年前に柵に使われた材木の遺跡が田んぼの下に保存されておりますが、その範囲がわかるようにと、稲刈り後の水田に高梨小学校や横堀小学校の皆さんが幟旗を作って立ててくれています。また、仙北中学校では今年度、旧池田氏庭園の公開に訪れたお客様に対して、中学生がボランティアでおもてなしをするなど、その他にも各学校が様々な工夫のある取組をさせていただいております。

今回、提案をいただいた世代間を超えたシンポジウムは、大仙市ではこれまで開催したことはございませんが、平成26年度には、国指定10周年を迎える旧池田氏庭園について、県立金足農業高等学校の造園緑地科の生徒さん方から庭園を調査していただき、秋には様々な年代の方々にご案内して、多世代交流シンポジウムを開催したいと考えております。

また、そうした活動の一環として、ワッペンやバッジ、そして看板などを作ることは、大変素晴らしいことだと思います。大仙市では、皆さんの活動によって得られる成果を有効に生かしていきたいと考えております。今後とも積極的な取組を期待しております。終わります。

【生涯学習部長 降壇】

○議長（伊藤真央） 再質問はありませんか。

○中仙中学校（藤田隼平、高橋悠菜） はい。

○議長（伊藤真央） はい、再質問をお願いします。

○中仙中学校（藤田隼平、高橋悠菜） 中仙中学校の高橋悠菜です。このように、ふるさとのよさを発見したり、発信したりする上で、私たち中学生にできることがあれば教えて下さい。



○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。三浦教育長さん。

【三浦教育長 登壇】

○教育長（三浦憲一） 中仙中学校の再質問にお答え申し上げます。

中学校の皆様にはふるさと教育ということで、教科書での学習、或いは資料収集ということで、インターネットでの情報収集等色々頑張っていたいております。ただそれだけに留まることなく、やはり地域の方々とより多く触れ合っていたいただきたいと思います。特に交流活動ですね。その触れ合いでは、きっと新しい発見があるのでないかなというふうに私たちは考えております。特に、皆様方がお会いするお年寄りには、これまで永らく生きてきた知恵がございます。それは、「人」という文化財なのかもしれません。

ところで、皆さん、伊能忠敬という人をご存知ですか。社会科2年生では学習していると思いますね、歴史の勉強でですね。地図、日本列島の地図を詳細にまとめた方で有名な方であります。実はその伊能忠敬さんの測量隊が、江戸時代中期にこの大仙市、当時の花館村の勘左衛門という肝煎宅ですね。肝煎ですから、名主、或いは今で言う村長さんのようなお宅に泊まりまして、この近辺を調査している記録が見つかっております。教科書だけの伊能忠敬という概念が多いんですが、その実物の伊能さんがここにきているわけですね。そういうお話を聞きますと日本の歴史もぐっと身近に感じるのではないかなと思うわけでございます。これからも、実際に地域の人々或いは文化財と触れ合いの機会を大切にしまして、ふるさとの「誇り」につながるものを、自分の目で見つけていただきたいな、それが最も大切なことではないかなというふうに考えます。なんとか皆さんの積極的な行動を期待するところでございます。以上であります。

【三浦教育長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて中仙中学校、12番藤田隼平さんと13番高橋悠菜さんの一般質問を終わります。

【中仙中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 次に豊成中学校、14番池田さゆかさんと15番相馬啓人さんをお願いします。

○豊成中学校（池田さゆか、相馬啓人） はい、議長14番。はい、議長15番。

【豊成中学校 対面式演壇に登壇】

○議長（伊藤真央） それでは質問をお願いします。

○豊成中学校（池田さゆか、相馬啓人） 豊成中学校の池田さゆかです。健康福祉部に地域の福祉や高齢者支援に係わることを質問します。



近年、全国的に一人暮らしのお年寄りが増えていることが問題になっています。中には孤独死に至ってしまうケースもあるようです。市の統計によると、私たちの大仙市も少子高齢化が進み、例外ではなくなっていることがわかります。これはとても悲しく残念なことです。この問題が少しでもよい方向に向かうよう、私たち中学生にも何かできることはないかと考えました。

豊成中学校では、除雪ボランティア「大仙雪まる隊」に生徒全員が登録するなど、ボランティア活動が盛んです。このような活動を土台として、定期的に一人暮らしのお年寄りのお宅を訪問する「大仙みまもり隊」

をつくることができないかと考えました。具体的には、中学生はもちろん、小学生や幼稚園児の方も一緒に訪問し、お年寄りの方と交流するという活動です。交流の内容としては、「掃除の手伝い」や「肩もみ」、「昔ながらの遊びを教えてください一緒に遊ぶ」等ということを考えています。この提案が実現可能かどうか、ご意見をいただきたいと思えます。よろしくお願いします。

○議長（伊藤真央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。今田健康福祉部長さん。

【健康福祉部長 登壇】

○健康福祉部長（今田秀俊） 豊成中学校、池田さん、相馬さんのご質問にお答えいたします。

近年、一人暮らしの高齢者は増える傾向にあり、これは大仙市だけではなく、全国的な傾向です。平成24年7月1日現在の大仙市の一人暮らし高齢者の数は3,175人です。同じ時期の全国の一人暮らしの高齢者の数値は公表されていませんが、厚生労働省の「国民生活基礎調査」では、平成23年の一人暮らしの高齢者数は、約470万人であります。国の推計では、日本の高齢化は今後も進み、平成25年には4人に1人が、平成72年には国民の2.5人に1人が高齢者になる見込みであります。これは、これまでの世界のどの国も経験したことのない社会を迎えようとしています。

こうした状況を踏まえて、大仙市では、高齢者に限らず、若い人の引きこもりや孤独死も全国的な問題になっていることから、地域に住む人全てを対象とした「見守りの仕組み」を進めています。例えば、新聞配達、郵便配達、宅配、ガスや電気などのメーター検針を行う21事業所と「地域見守り協定」を結び、訪問先での異常を察知した場合に、状況に応じて市役所や警察、消防に連絡していただき、速やかに必要な支援に結びつける仕組みが完成し、機能しております。市の担当職員は、これらの業者から24時間体制で通報を受け付けし、対応が可能になるようにローテーションを組んで、常時、専用携帯電話を持ち歩いています。また、災害が発生した時に、一人では対応できない、或いは避難に不安を感じている方々を把握し、社会福祉協議会や地域の身近な相談相手として必要な支援を行う民生児童委員と、こうした情報を共有し、災害発生時だけではなく、普段から見守り支援ができるような仕組みもできあがっています。

ボランティア活動の活発な豊成中学校の皆さんが、「大仙みまもり隊」をつくって一人暮らしのお年寄りの家を訪問し、交流と支援をしようという考えは、とても素晴らしいことです。地域の子も達が

支援してくれるということは、お年寄りにとっては何にも増して心強く感じることでと思います。

ご提案の「大仙みまもり隊」をつくって、定期的にお年寄りの家を訪問することについてですが、小学生と中学生が一緒になって行うことは、それぞれの小学校と中学校が話し合って協力し合うことができれば可能だと思います。しかし、数多くのお年寄りの家を一斉に訪問することは難しいので、もし希望する学校がある場合はどの家を訪問するのか、訪問を受入れてもらえるのか、何人で訪問するのか、誰が引率していくのかなど、事前に多くのことを話し合って決めなければならないことから、予め先生に相談し、学校としての考えをまとめていただきたいと思います。その上で、市に相談していただければ、できる限りの協力をしたいと考えております。なお、幼稚園児については、老人ホームなどを訪れて激励するといったような支援が良いのではないかと思います。

それから、大仙市社会福祉協議会では、毎年6月下旬頃に「サマー・ショート・ボランティア」への参加募集を行っています。これは、市内の小学生以上の児童・生徒を対象に、夏休みを利用した短期間のボランティア活動への参加者を募集し、それぞれが希望する分野でボランティア活動を体験することで「奉仕する心」を育てようというものです。時期が来ると、社会福祉協議会から各学校に「サマー・ショート・ボランティア」募集のチラシが届けられると思いますので、これに参加することも、皆さんにとって、今後、ボランティア活動を継続していく上での大きなきっかけとなると思います。

参考までに、平成25年度の「サマー・ショート・ボランティア」に参加された児童生徒の状況ですが、大仙市全体で小学生48名、中学生132名、高校生55名で、合計240名が参加しています。

以上で回答を終わります。

【健康福祉部長 降壇】

○議長（伊藤真央） 再質問はありませんか。

○豊成中学校（池田さゆか、相馬啓人） はい。

○議長（伊藤真央） はい、再質問をお願いします。

○豊成中学校（池田さゆか、相馬啓人） 大仙市では、高齢者支援班を設置していると伺っていますが、実際にはどのような取り組みを行っているか教えてください。



○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。老松副市長さん。

【老松副市長 登壇】

○副市長（老松博行） 豊成中学校の池田さんと相馬さんの再質問にお答えいたします。

大仙市の健康福祉部という組織の中には「地域包括支援センター」という部署があります。ただどういう仕事をしているのか少し分かりにくいということで、「高齢者あんしん相談室」という愛称で呼ばれております。この「地域包括支援センター高齢者あんしん相談室」には「地域包括支援班」とそれからご質問の「高齢者支援班」と二つの班があります。「高齢者あんしん相談室」では、高齢者の皆さんの介護や福祉サービスの相談、生活上の困り事など、様々な相談を受け、その解決のためにいろいろな制度の紹介や、関係する機関との調整などの他、高齢者の生活を支援する各種のサービス利用に繋げる仕事をしております。

ご質問の「高齢者支援班」について具体的に申し上げますと、高齢者宅にお弁当をお届けする「配食サービス事業」、それから高齢者宅の日常生活上の簡単な作業などをお手伝いする「軽度生活援助事業」、そして一人暮らし高齢者の方が急病や火災などの緊急時に、ボタン一つで連絡対応できる「ふれあい安

心電話事業」、そして自宅で高齢者を介護している方を支援する「家族介護教室」、それから「介護用品支給事業」など、高齢者の生活を支援するための事業を担当しております。また、冬期間の事業として、自力で除雪が困難な高齢者などを対象に、家の前に道路除雪車が残っていた固い雪のかたまりを取り除き、家の出入り口を確保する「高齢者等除雪サービス事業」も高齢者支援班が担当しております。このように、高齢者支援班では、高齢者の皆さんが住み慣れた地域で安心して生活していくことができるようお手伝いする仕事を行っております。以上で終わります。

【老松副市長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて豊成中学校、14番池田さゆかさんと15番相馬啓人さんの一般質問を終わります。

【豊成中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 次に協和中学校、16番小山田有希さんと17番茂木佳奈子さんに お願いします。

○協和中学校（小山田有希、茂木佳奈子） はい、議長16番。はい、議長17番。

【協和中学校 対面式演壇に登壇】

○議長（伊藤真央） それでは質問をお願いします。

○協和中学校（小山田有希、茂木佳奈子） 協和中学校、茂木佳奈子です。教育指導部と生涯学習部に質問をします。



私たちの住む大仙市では、スポーツ合宿の誘致に積極的に取り組んでおり、今年度は県内外から19の高校・大学が合宿を行ったと伺っています。そして、その地域でスポーツ教室を実施するなど、参加した小・中学生のスポーツに対する興味や意欲は高まっています。また、現在教育委員会が取り組んでいる「こころのプロジェクト『夢の教室』」でも、プロのスポーツ選手と触れ合う機会をいただいています。今年度、協和小学校では「夢の教室」が、協和中学校では「オリンピック教室」が開かれました。これは協和中学校で開かれた「オリンピック教室」の様子です。元バレーボール日本代表の大山加奈さんに来ていただきました。

プロのスポーツ選手の迫力にとっても驚きました。グループに分かれて、簡単なゲームも行いました。協力することの大切さを学び、友達との絆も深まりました。そして加奈さんの体験談やこれが基となった現在の考えについてお話を聞きました。それを踏まえて私たちは、今自分たちに必要なことは何かを話し合いました。こうした取り組みを通して私たちは、スポーツの魅力を知り、友達との絆を深め、夢を持つことのすばらしさを学び、学校生活に良い刺激を与えていただきました。こちらのグラフをご覧ください。これは協和小学校で開かれた「夢の教室」と協和中学校で開かれた「オリンピック教室」の参加者の割合です。どちらも限られた人数しか参加できず、他学年からは「自分たちもやってみたかった。」という声が寄せられています。

そこで2つの提案があります。

1つ目は、教育指導部の「こころのプロジェクト『夢の教室』」を、もっと大仙市全体にPRし、より多くの生徒や市民が参加できる教室にしていくことを提案します。

2つ目は、生涯学習部スポーツ振興課への提案です。国内外からトップアスリートを招き、もっとたくさんの方々の地域でスポーツ交流会などを開催することによって、アスリートの体験談を聞きたい人や、技

術の向上を図りたい人、体を動かして交流を図りたい人など、様々な人々のニーズに応えたスポーツ事業を進めていくことを提案します。

私たちは、スポーツを通して「心も体も健康で活気あふれる大仙市」をつくっていきたいと考えています。そのためにも、私たち小・中学生がアスリートや地域の方々との交流を深め、スポーツのすばらしさや夢をもった生き方の大切さについて学ぶ機会が増えることを望みます。

ぜひ、今後の計画や未来像について教えてください。よろしくお願いいたします。

○議長（伊藤真央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。小笠原教育指導部長さん。

【教育指導部長 登壇】

○教育指導部長（小笠原晃） それでは協和中学校、小山田さん、茂木さんのご質問にお答え申し上げます。

はじめに、「こころのプロジェクト『夢の教室』」の規模拡大についてですが、これは、小・中学生がプロのスポーツ選手や一流の芸術家の技などに実際に触れたり、話を聞いたりして、夢をもつことのすばらしさやそれに向かって努力することの大切さを知り、夢の実現に向かって努力する気持ちを育むことを目的として、平成22年度から行っております。

「夢の教室」は、プロのスポーツ選手、チェロ奏者、画家に学ぶ3種類の内容を、主に小学校5年生を対象に行っております。これまでに全ての小学校が2種類以上の「夢の教室」を行っております。さらに、中学生を対象とした本市出身のクラシック歌手小松英典さんによる「夢の教室」は、平成26年度で全ての中学校が行う予定となっております。なお、プロのスポーツ選手による「夢の教室」は、平成25年度からは中学校1、2年生まで拡大し、2中学校で実施しており、今後も充実させたいと考えております。

「こころのプロジェクト『夢の教室』」の広報等につきましては、実施される月はじめの市の定例記者会見でその都度お知らせをしておりますし、市のホームページにも掲載しています。また、新聞等でも取り上げていただいておりますし、実施する各校におきましては、各家庭等にもお知らせして、子どもたち以外の方々にも参加していただいたりしております。

「夢の教室」を体験した皆さんからは、一流の技などのすばらしさを体全体で感じ、自分の努力の糧にすることができたという感想をいただいております。皆さんにより機会を提供できてよかったと感じているところであります。来年度以降も、『夢の教室』は継続する予定でありますので、ご提案のとおり、より多くの子ども達や市民が参加できるよう、広報活動などの工夫に今後も努めてまいりたいと考えております。

次に、スポーツ交流についてお答えいたします。

大仙市では「一生 スポーツ 一生 健康」をキャッチフレーズに、市民の皆さんが様々なスポーツに触れられる機会の提供に努めております。現在、市では県内外、特に首都圏方面から高校・大学のスポーツ合宿を積極的に招いておりまして、平成25年度はこの年末年始までに20団体、先ほど19とありましたが、この年末にも1団体まいりましたので20団体となって、本市の施設を活用していただいております。合宿期間中には地元の小・中学生を対象に野球教室や、市内の高校野球部と大学チームとの練習試合などの交流活動が行われ、スポーツを通じた交流人口の拡大が図られております。また、今年度5月には、市内の全小・中学校からも参加していただいた世界規模のイベント「チャレンジデー」で、中仙小学校に秋田ノーザンハピネッツの選手2名をお招きし、技術指導を受けるなどの交流を行いました。さらに、10月には、元プロ野球選手4名による野球教室が開催され、大仙市内外の中学生球児、監督やコーチ、保護者の方が技術指導を受ける交流活動を行いました。

このように、市民の皆さんにスポーツのすばらしさを感じていただくために、各競技のトップアスリートとの交流の機会をより多く提供できるよう取り組んでおりますが、ご提案のとおり、今後とも継続して充実を図るよう努力してまいりたいと思います。

なお、来年度は、陸上競技教室と野球教室を予定しております。陸上競技では400メートルハードル世界陸上銅メダリストの為末大さんと、大仙市南外出身でアテネ五輪1600メートルリレーで4位入賞を果たした伊藤友広さんからご指導をいただく予定であります。また、野球では、プロ野球の選手や監督として活躍された近藤昭仁さんや、巨人のかつて日本一に貢献された駒田徳広さんなどを指導者に予定しています。いずれも、小・中学生をはじめ一般市民の方が多数参加して、一流選手との交流を楽しめるよう、企画や宣伝を工夫し、多くの競技種目でスポーツ交流が実践できるように努力してまいりたいと考えております。以上であります。

【教育指導部長 降壇】

○議長（伊藤真央） 再質問はありませんか。

○協和中学校（小山田有希、茂木佳奈子） はい。

○議長（伊藤真央） はい、再質問をお願いします。

○協和中学校（小山田有希、茂木佳奈子） 具体的なお答えありがとうございました。



「心も体も健康で活気あふれる大仙市」をつくっていくために、中学生へのアドバイスをお願いします。

○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。三浦教育長さん。

【三浦教育長 登壇】

○教育長（三浦憲一） 協和中学校の再質問にお答え申し上げます。

大仙市の中学生の皆さんは、他県の教育視察団の方々がどのような反応をされるかといいますと、非常に頑張っていると評価されていることがございます。「早寝、早起き、朝ご飯、運動、家庭学習」非常に生活のリズムを整えて頑張っているねという評価をたくさんされております。ということ、自分たちはなかなか気がつかないということがあるんですが、そういうことを一層意識するとともに、心身共にやっぱり健康な体づくりが一番の土台になるということをしかり身につけていただいて、一方では家庭の方々、地域の方々が学校の様々な活動を支えていただいているということも、或いは応援していただいているということもしかり心を配りながら、自分たちでもふるさとに感謝する気持ちをもって、双方向で交流する、そういう形で頑張っていっていただきたい。午前中に生徒会サミット、中学生サミットを参加させていただきました。すばらしい提案がたくさんなされていまして、皆さん方から。あれも1つ1つ実行していただきたいですし、それから個人のそれぞれの将来の夢や希望、それから目標、しっかりと考えてその達成に向けてやはり具体的な1歩1歩の努力こそが成長させていく源になるのではないかなと思いますし、活力ある大仙市に結びついていくものでないかなとこう考えております。是非、皆さま頑張ってください。以上であります。

【三浦教育長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて協和中学校、16番小山田有希さんと17番茂木佳奈子さんの一般質問を終わります。

【協和中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 次に仙北中学校、18番小林成輝さんと19番本間紫苑さんをお願いします。

○仙北中学校（小林成輝、本間紫苑） はい、議長18番。はい、議長19番。

【仙北中学校 対面式演壇に登壇】

○議長（伊藤真央） それでは質問をお願いします。

○仙北中学校（小林成輝、本間紫苑） 仙北中学校の小林成輝です。市民部にゴミに関することを質問します。



現在、私たちの大仙市では、地域の小学生と中学生が、夏休みに合同でクリーンアップをしたり、各学校で資源回収やREVOプロジェクトに取り組むなど、環境への関心は高いと思います。

しかし、大仙市内を通ると、道路等に落ちているゴミをよく目にします。それに、そのゴミは何日もそのままになっているのです。地域によっては、大人と子どもが行事等でごみ拾いをしたり、気づいた人がゴミを拾ったりすることもあるようですが、現状、市民がゴミ拾いをする活動が少ないように思います。

私はこの大仙市をより美しく、より観光客に喜ばれる街にしたいと思っています。また、「おらほの大仙市」と誇れる気持ちが、市民一人一人に芽生えることを期待しています。

そこで、中学生が中心となり、大仙市民みなでゴミ拾いをする機会を増やすために、季節に一度の市民一斉クリーンアップデーの実施を提案します。例えば、八乙女の花見、大曲の花火、旧池田氏庭園、除雪ボランティア活動などとリンクさせて実施し、観光の街大仙市のイベントの一つとして定着させれば、大仙のPRにもなり、また市民の郷土を愛する気持ちの高まりにもつながると思うのですが、いかがでしょうか。

また、市民参加による環境保全などについて、今後の活動予定や計画を教えてください。よろしく願いいたします。

○議長（伊藤真央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。山谷市民部長さん。

【市民部長 登壇】

○市民部長（山谷勝志） 仙北中学校の小林さん、本間さんの質問にお答えいたします。

はじめに、クリーンアップ実施の提案についてですが、現在、世界中で問題となっております環境問題の多くにつきましては、私たちの日常生活や事業活動に伴う環境への負担が大きな原因となっております。環境問題を解決するためには、一人ひとりが身近な環境について考え、環境に配慮した行動をとることが重要であり、清掃活動を通じて環境美化に努めることは、大切なこととなります。

さらに、こうした活動は、地域を訪れる観光客の皆さまへのおもてなしの心にもつながるとともに、自ら参加し清掃活動を行うことで、地域への愛着を深める機会にもなると思われます。

現在の環境美化活動の取り組み状況につきましては、自治会や町内会等によります住宅地域周辺の清掃活動のほか、雄物川流域の河川敷や全国花火大会の開催にあわせた清掃活動など、学校や地域及び職場や市民団体等によります様々な活動が行われております。

市の取り組みといたしましては、市民の環境美化意識の高揚を図るために、毎年4月のクリーン強調月間に合わせまして、雪解け時期における市民総参加で身近な場所についての、「全市一斉クリーンアップデー」を実施しており、平成25年度は392団体、10,669人の参加を得て、可燃ゴミを8,110kg回収するなどの活動をしております。

また、広報誌や市ホームページなどでごみを捨てないことや、循環型社会の構築を目指して「ごみを減らす・リデュース、繰り返し使う・リユース、再生利用する・リサイクル」の啓発を呼びかけておりますが、いまだ、市内の道路を歩いて見ますと、落ちているごみを目にすることがよくあり、残念な思いをしております。

ご提案の「中学生が中心となって市民みなでごみ拾いをする事」や「施設やイベント及びボランティアとリンクさせての一斉クリーンアップの実施」につきましては、是非、取り組んでみたいと考えております。市民の皆さんと環境に取り組むきっかけになるものと大いに期待できますので、中学生の皆さんから具体的な提案をしていただきながら、一緒に対応策について話し合いをしていただきたいと思います。

なお、環境保全などに関する今後の活動予定や計画につきましては、引き続き清掃活動に必要な物品の提供や、クリーンアップ活動への参加呼びかけなどを行い、市民総参加の環境美化活動の推進と啓発活動に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【市民部長 降壇】

○議長（伊藤真央） 再質問はありませんか。

○仙北中学校（小林成輝、本間紫苑） はい。

○議長（伊藤真央） はい、再質問をお願いします。

○仙北中学校（小林成輝、本間紫苑） ゴミ処理や環境保全の面で、中学生が協力できることがありましたら教えてください。



○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。老松副市長さん。

【老松副市長 登壇】

○副市長（老松博行） 仙北中学校の小林さんと本間さんの再質問にお答えいたします。

市で実施しております環境学習事業の「環境家族宣言」、また、エコチャレンジ等に是非積極的に参加していただきまして、家庭から出されるごみの減量や分別について、家族みなで実践していただきたいと思います。また、家族みなで地域の清掃活動等におもてなしの心と郷土を愛する気持ちを持って参加していただきたいというふうに思います。さらには、リサイクル活動やエコ活動、そしてボランティア活動を推進する、大仙市中学生サミットのREVOプロジェクトからの要望や提言をしていただきまして、緑豊かな自然環境を将来の世代に引き継いでいくため、「おらほの大仙市」と誇れるまちづくりに、中学生の皆さんも主体的になって参加していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【老松副市長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて仙北中学校、18番小林成輝さんと19番本間紫苑さんの一般質問を終わります。

【仙北中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 次に太田中学校、21番小松美結さんと22番高橋大翔さんをお願いします。

○太田中学校（小松美結、高橋大翔） はい、議長21番。はい、議長22番。

【太田中学校 対面式演壇に登壇】

○議長（伊藤真央） それでは質問をお願いします。

○太田中学校（小松美結、高橋大翔） 太田中学校、小松美結です。建設部に歩道の整備と除雪の徹底について質問します。



私たちの住む大仙市は、雪の多く降る地域です。雪が積もると、ほとんどの小・中学生が歩いて登下校します。しかし、私たちの通る道には、除雪の不十分なところもあり、多くの小・中学生や住民の方々には不便を感じています。また、歩道のない道では道幅が狭くなり、車との距離が近くなるため非常に危険です。特にここ数年は、大雪のため、道路脇によせられた雪が高く積み上って、見通しも悪くなっています。

こちらの写真をご覧ください。これは学校の近くの通学路に雪が降り積もっている写真です。車道は除雪されていますが、寄せられた雪が歩道をふさぎ、通行する人々がとても危なく不便な状況でした。また、ほかの中学校では、高齢者の方々にとって負担の大きい、除雪の手伝いを行っているところもあるようです。単なる「雪よせ」だけでなく、高齢者の方々との交流もでき、心のふれ合いにもつながる、よい取り組みだと思うので、いつか太田中でも実践できたら、と考えています。自分たちの地域の除雪に、中学生である私たちも関わっていったらよいと思います。

しかし、中学生が手伝う除雪には限界があります。そして、今のままの道路は決して安全ではありません。そこで、車道と歩道の両方をしっかり整備することと、歩道を整備し安全な通学路をつくることを要望します。

近い距離でも、車を使うことが増えていますが、歩きやすい歩道、安心して通学できる道路を整備することで、小・中学生や高齢者の方々も、安心して歩くことができると思います。

私たちが目指すのは、安全に配慮し、明るい笑顔を増やす街づくりです。

この要望について、お答えください。よろしくお願いします。

○議長（伊藤真央） 質問が終わりました。答弁をお願いします。田口建設部長さん。

【建設部長 登壇】

○建設部長（田口隆志） それでは太田中学校、小松さん、高橋さんの質問にお答えいたします。

はじめに、皆さんが普段通る道路の種類について説明いたします。道路は、国、国土交通省ですが、国が管理する国道、秋田県が管理する県道、そして大仙市が管理する市道の大きく3種類に分かれております。また、道路の除雪も、管理するそれぞれの機関が行っております。

大仙市では、積雪期間の通行の安全を図るため、機械による除雪のほか、消雪パイプなどの消融雪施設並びに流雪溝施設を整備しております。機械除雪については、全面的に業者委託とし、市道6、643路線、道路延長にして約3,203kmのうち、除雪が必要な4,014路線、車道と歩道を合わせ道路延長約1,785kmを254台の機械で除雪しております。除雪機械については109台が市の所有の機械で貸与している形をとっております。これらの作業は58業者、2企業体、6組合、そして5人の個人の方と契約して実施しております。除雪の方法は、市内全域に設置された15台の積雪センサーが、降雪量10センチを感知した段階で、除雪機械の運転手に出動命令がメールで送られ、除雪作業が始まります。除雪機械の運転手は、皆さんが眠りについている深夜2時から作業を開始し、市民の皆さんの通勤・通学に支障がないよう、午前7時30分までの限られた時間に一生懸命頑張っております。また市の職員も毎日道路パトロールを行いながら、状況によっては出動命令をだして、皆さんの安全確保に努めております。それでも雪の状況によって、皆さんの通学時間までに除雪作業が終われない場合もありますし、雪が降り続く日は、除雪しても、すぐ雪が積もったり、また道路の幅がすぐ狭くな

ってしまう場合等があり、それにより壁ができて見通しの悪い場所もでてまいります。このような状況を解消するためには、道路脇の雪を雪捨て場に運ぶ「排雪」という作業が必要になってまいります。ここ数年、早めの対応を行っていることから、大きな事故もなく、皆さんに喜ばれておりますこの排雪作業につきまして、今後もさらに力をいれてまいりたいと考えております。

さて、皆さんからの問い合わせで多いのは、除雪車の情報でございます。市では、今年新たにGPS機能を活用した除雪情報提供システムを取り入れました。今年はまだ試験運用で、本格的にシステムが働くのは来年の冬からになります。このシステムによって市民の皆様が除雪作業の状況を実際にその場に行かなくても分かるというよい点のほか、我々は道路パトロールに集中でき、除雪機械同士の連携がスムーズになり、効率よく除雪が行われるような利点があります。

次に歩道の整備についてですが、市では平成24年7月25日から27日にかけて、学校、教育委員会、大仙警察署、市や県など関係機関が参加し、市内小学校の通学路における緊急合同点検を行い、それぞれの役割分担による対応策を決めております。その対応策としましては、横断歩道などの路面表示、注意看板やカーブミラー、照明灯の設置、道路側溝の修繕などすぐに対応が可能なものや、歩道の新設及び拡幅など、毎年、計画的に進めるものなどがあり、平成24年度から、それぞれできることから実施しております。箇所によっては、数年の期間が必要となるケースもありますが、確実に歩道の整備など歩行者の安全な環境整備に取り組んでおりますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

#### 【建設部長 降壇】

○議長（伊藤真央） 再質問はありませんか。

○太田中学校（小松美結、高橋大翔） はい。

○議長（伊藤真央） はい、再質問をお願いします。

○太田中学校（小松美結、高橋大翔） お答えいただきありがとうございます。GPSシステムはどれくらいの数が使われていて、どのくらいの地域の様子を知ることができるのでしょうか。



○議長（伊藤真央） 再質問に対する答弁をお願いします。栗林市長さん。

#### 【栗林市長 登壇】

○市長（栗林次美） 再質問にお答えいたします。

先程來說明しておりますが、高齢者世帯の増加やあき家等の問題で、この除排雪については相当大仙市としても気を遣っているところであり、先ほどの説明ありましてけども、高齢者世帯を対象とした間口の除雪サービスや或いは小型除雪機会の貸出であるとか、或いは中学生も頑張ってもらっております除雪ボランティア「大仙雪まる隊」の活動、あき家対策など、こうした問題が非常に年々大変な課題になってきております。市長としては、これ市役所としてですが、様々な対応、除排雪に対する対応を行っておりますけれども、現在のままではこの対策が立ち行かなくなるのではないかと、そういう危機感を持っております。そうしたことで、昨年から本格的な市としての雪を克服する対策、これを策定しようということで、現在、総合的な雪対策の準備を進めております。計画ができて実行できるのは来シーズンということになりますが、そうしたことを前提として、今年から1年前倒し、早い段階でこの「除雪情報提供システム」を運用しようとしております。先ほど部長が答弁したように、今年あくまでもテストということになりますが、こうしたものをやりながら、来シーズンには254台、これはもっと増えると思いますけれども、これらのすべての除雪機械に、1月1日から、シーズンはじめか

ら本格的な情報が皆さんが見れるような形で、やってみたいということで準備しております。とりあえず今年から試行が始まりますので、大仙市のホームページで全部見れるようになっておりますので、除雪機械がどのような形で動いているか、そういうこともひとつ実際自分の目で見ていただきたいというふうに思います。いずれにしましても来シーズンにはより根本的な除排雪対策、雪対策を構築いたしたいと思っております。

それから、今日辺りから大変な寒波がくるということであります。間もなく、新しい学期がはじまろうとしております。今日実際の事例を見せていただきました。ああいう状態にならないよう、できるだけ対応を準備して、3学期皆さんの登下校、或いは一般市民の皆さんの通行、これが障害がでないように市としては頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【栗林市長 降壇】

○議長（伊藤真央） これにて太田中学校、21番小松美結さんと22番高橋大翔さんの一般質問を終わります。

【太田中学校 自席へ】

○議長（伊藤真央） 日程第5、決議案第1号「大仙市中学生議会（大仙市中学生サミット宣言）に関する決議案」を議題といたします。本決議案は、議長を除き、全議員の提案であります。提案者を代表して23番議員、南外中学校の大槻悠也さんから提案理由の説明をお願いいたします。

○南外中学校（大槻悠也） はい、議長23番

【南外中学校 大槻悠也さん 登壇】

○議員（大槻悠也） 決議案第1号は、お手元に配布しております決議案を読みあげまして、提案理由の説明に代えさせていただきます。

私たち大仙市の中学生は、未来をつくる担い手として、この自然豊かな美しい大仙を守り、若者とお年寄りが手を取り合って共に生き、笑顔あふれる明るいまちを創造していくことを誓います。

何卒中学生議員の皆さんのご賛同をお願い申し上げます。

【南外中学校 大槻悠也さん 降壇】

○議長（伊藤真央） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

本件は、議長を除く全議員の提案でありますので、質疑と討論を行わず、直ちに採決したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊藤真央） ご異議なしと認めます。

これより決議案第1号について、起立をもって採決いたします。

ただいま提案されました決議案第1号「大仙市中学生議会（大仙市中学生サミット宣言）に関する決議案」は、原案のとおり決することに賛成の皆さんのご起立をお願いいたします。

【起立 全員】

○議長（伊藤真央） 起立全員です。

よって、決議案第1号「大仙市中学生議会（大仙市中学生サミット宣言）に関する決議案」は、原案のとおり可決されました。

ご着席ください。



以上で、本中学生議会の日程はすべて終了しました。これにて、平成26年大仙市中学生議会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後3時40分 閉 会

この会議録の内容に間違いがないことを確認し署名します。

平成 26 年 2 月 5 日

大仙市中学生議会議長 南外中学校 伊藤真央

議員 大曲中学校 伊藤 徹

議員 大曲西中学校 阿部駿汰

議員 大曲南中学校 寺田 信



## <閉会式>

### ◆ 栗林次美 大仙市長 お礼のあいさつ

感想を含めて御礼のごあいさつを申し上げたいと思います。

今日の中学生議会、現在、大仙市で実施しております議会とほぼ同じ形で議会進行、議事進行をしていただいて、私どもが答弁しております。

できるだけ我々答弁する側としましては、行政の専門用語であるとか、或いは法律の専門用語的なものをわかりやすく説明をしながら、お答えしたつもりであります。実際に皆さん、いかがだったでしょうか。いずれ会議でありますので、いろんな考え方があると思いますが、このほかにフリートキング的な場所で議論をする、そういう議会も一緒にやっております。

今日は正式な本会議という場での議会の皆さんからの質問、提案、課題、そういったものに対して現在の市側、執行部側がどう実施しているのか、或いは実施しようとしているのかを答えるという、そういう形で、それぞれ記録を残しておかないと、具体的に前に進めない問題がたくさんあるということで、大仙市議会ではこうした形で議会の皆さんの発言したことを記録に残して、また、私ども市側が答えたことを記録に残して、そこをひとつの起点として、仕事をしていく、物事を進めていく、そういうやり方をしております。やや堅苦しい感じがあったかと思いますが、これが現在の議会の姿であるというふうにご理解をお願いしたいと思います。

また、これをどう変えていくか、あるいは、どういうふうな形にすればより理解しやすいかということについては、議会も我々市側も一緒になって考えていかなければならない、というふうに思っているところでありますが、現在のところはこういう形でやっているということをご理解頂きたいと思います。

従いまして、今日、我々答弁させていただきました、それぞれの要旨について皆さんに後でお渡ししたいと思います。多分、聞いている場で、どのくらい我々が説明できたかという感想もあとでいただきたいと思います。

中学生の皆さん、今回の議会、本当に良く大仙市の課題、そういったものを調査していらっしゃるということで、大変、感心して我々一生懸命答弁したつもりですが、どこまでまた皆さんが理解できたかが、とても大事ではないかと思っております。多分、私の考えですけれども、中学生の皆さんが100パーセントでは無くとも、大方理解できない形での答え、答弁は、多分、一般市民の人達もわからないのではないかと、そういうふうには思っております。そういう意味で一つ、今日のやり取りについて、あとでお渡ししますので、ひとつ感想などを後で、お寄せいただきたいなというふうに思っております。

総括的なことを若干、触れさせていただきますが、大曲西中の皆さんから質問がありました国際交流に関すること、この件については、国際教養大学の留学生の皆さんとのいろんな協定に基づく、地域交流プログラムというものを作っております。大仙市から国際教養大学に職員を1名派遣して、地域との交流プログラムを中心に仕事をして貰っています。そして今度、来年度から秋田大学で国際資源学部が担当するというので、世界から100名以上の留学生、120人ぐらいの学部でおそらく半分ぐらいが留学生という学部もできますので、秋田大学とも大仙市は教育関係の協定を結んでおりますので、外国がより身近になるように、そうした教養大とそして秋田大学を軸にして留学生との中学生、小学生との交流というものを進めて行きたいと思っております。

それから大曲南中学校の皆さんからご指摘を受けておりますこの川港親水公園の問題、本来であれば



ビオトープ、自然観察できるような形で国が設計、施工したものでありますが、残念ながら副市長が説明したように、様々なトラブルによってうまく行っていない。ですけれども、一生懸命、これを何とか直そうということで、生活排水の問題も含めて今、取り組んでおります。公園ができて20年になりますので、公園そのものはかなり良い、木も生い茂って綺麗な公園になっています。あとはあそこの水の問題、もう少し頑張ってビオトープ的な形で自然観察もできるものにしたい。あきらめないで大仙市で頑張っていきたいと思っております。

それから平和中学校の皆さんからご指摘いただきましたゆるキャラの問題であります。なかなかこう、わかりにくい答弁ではなかったかなと思っておりますが、ゆるキャラは今、6つあります。それぞれ合併前にできたものもあります。そういうことで、私は今、来年3月、大仙市、8つの市町村が合併して大仙市になりましたが、ここが10周年ということになります。10年に向けて皆さんの提案、提言を市民の皆さんに投げかけて見たいなというふうに思っております。もしかすれば合併して10年になりますので、10年の中でどういう一つのシンボルができるのかということを考えてみたいなというふうに思っております。

それから協和中学校の皆さんからご質問ありましたスポーツや文化に関する夢の教室の問題ですが、大変、中学生の皆さん、刺激になっていらっしゃるということを今日も皆さんの発言の中で伺うことができまして、本当に良かったなと思っております。この事業はより整理をしながら教育委員会の皆さんと一緒に、学校の皆さんとも一緒になって、しっかり、スポーツであれ、文化であれ、両面で一つ、きっちりした大仙市の学校教育の中に位置づけていきたいなと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それから一つ補足しておきたいのですが、スポーツ関係ですと、どうしても健常者の皆さんに目を向けられますけれども、今度のオリンピックの中でもオリンピックとパラリンピックというものが一緒になっております。もう一つ、知的障がいのある皆さんの問題については、やや日本全体でも遅れているのではないかなと思っております。この部分については、スペシャルオリンピックスという形の中で知的障がいの皆さんが定期的にとどこかに集まって指導を受けてアスリートになる人もおるかもわかりません。そういう場を我々、今、大仙市で作ろうということでスポーツ振興課と福祉事務所が一緒になって、今、計画を作っていることをご報告させていただきたいと思っております。

いずれあの、今日の中学生議会、我々こちら側、市側、教育委員会も含めて、通常、執行部という言葉を使っていますが、それぞれの部長、局長を含めまして大変、緊張いたしました。今日、答えたことは議会に答えたこと、正式に答えたことと同じことでもありますので、皆さんの思い、提言、そういったものをしっかり受け止めて、市民のために、特に若い人達のために、代表として今日の議会があると思っておりますので、我々の考え、実行できるものは実行して行きたいと思っております。

今日は本当にありがとうございました。



### ◆ 三浦 憲一 教育長 記念品の贈呈

すばらしい司会、本当に頑張ってくれました。

それから議員の皆さんも一緒に頑張ってくれました。

はじめての議会ですから、かなり緊張したと思いますが、本当に1回目としては私はパーフェクトでないかと思っています。これを是非、自分の学校に持ち帰っていただきたいと思います。御労苦に感謝して記念品を贈呈いたします。

これからもよろしくお願いいたします。



### ◆ 中学生議員代表（伊藤真央） お礼の言葉



今日は、この大仙市中学生議会に参加させていただきありがとうございました。

私は、この会に参加して、大仙市で行われている一つ一つのことに対して、自分の考えを持ち、このまちをよりよくするためにはどうすればよいか、いろいろな方の意見を聞いて話し合っていくことが大切だと、改めて感じました。

これから私は、教育や福祉、大仙市の自然環境などの様々なことに興味をもち、よりよいまちづくりについて、自分の意見を持っていきたいと思っています。

最後になりましたが、この「大仙市中学生議会」をもってくださった、橋村議長さん、栗林市長さん、三浦教育長さん、関係者の方々にお礼を言いたいと思います。このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

これからも、多くの中学生が参加し、ともに考え行動していける「中学生議会」であってほしいと願っています。ありがとうございました。

# 県南

## 横手支社

☎ 0182-32-2345

FAX 0182-33-3059

### 大曲支局

☎ 0187-63-0163

FAX 0187-63-0066

### 角館支局

☎ 0187-64-2345

FAX 0187-64-1445

### 湯沢支局

☎ 0183-73-2187

FAX 0183-73-3866



ポイントを分かりやすく記しながら質問する協和中の生徒

## 市に提言、鋭い指摘も

### 大仙 中学生議会を初開催

除排雪、地域の安全、ゆるキャラ…

大仙市の11中学校の生徒たち、中学生24人が参加し、議長役が市政運営について質問、の南外中を除く10校の代表が提案する中学生議会が9日、一般質問に登壇。「除雪にも市議会本会議場で開かれた。つと力を入れて」「一人暮らし

し高齢者を守るため小中学生の「みまもり隊をつくりたい」「大仙市の「ゆるキャラ」をつくらう」など中学生の視点からさまざまな提案、要望が上がった。

議事進行役の議長は南外中の伊藤真史さん（2年）、副議長は同中の大槻悠也君（同）が務めた。残る22人が議員席に座り、栗林次美市長ら答弁者と向き合った。

豊成中の池田さゆかさん（2年）、相馬啓人君（1年）は高齢者福祉をテーマに取り上げ「一人暮らしの高齢者が増えており、孤独死に至るケースもある。小中生らで定期的に訪問し交流する『大仙みまもり隊』をつくることは可能かどうか尋ねたい」と質問。太田中の小松美結さん（2年）、高橋大翔君（1年）は通学路などで除排雪が行き届いていないときがあることを写真で示し「決して安全とは言えない」などと指摘した。

時折鋭く切り込む中学生側の質問に対し、市側も真剣に答弁。市幹部は「みまもり隊」について「お年寄りには心強い。各学校で事前に必要なことを協議してほしい。できる限り協力したい」、除雪に関しては「道路脇の雪を運ぶ『排雪』に力を入れていく」と答弁した。

このほか「大仙市をアピ

ルする新しいゆるキャラをつくってはどうか」（平和中）、「一流スポーツ選手らの話を聞く」「夢の教室」の規模を拡大してほしい」（協和中）などの意見が出された。

栗林市長は終了後、中学生を前にあいさつし「提言をし、しっかり受け止め、できるものは実行していく。ゆるキャラ作製の提案は来年の合併10周年を踏まえ、市民にも投げかけてみたい」と述べた。中学生議会は市議会などが初めて開催した。

（山形寿士）

# 小・中学生議員が議会

## 大仙と仙北で初開催

### 鋭い質問 市長らたじたじ

「大仙市中学生議会」と「仙北市子ども議会」が9日、それぞれの市議会議場で開かれた。子供たちが「議員」の議会開催は、両市ともに初めて。通常の市議会さながらに一般質問が行われ、市長らの考えをただし、市政課題への取り組み方を提案した。いずれの議会も、地元の未来を担う子どもたちに市の政治や課題について理解や関心を深めてもらうのが狙いだ。



「私たちが乗っているスクールバスも、市の公共交通機関として活用できないか」「独居老人が増えているが、小・中学生がお年寄りの家を定期的に訪問する『大仙みまもり隊』をつくれないか」。大仙では、議員席や議長席に、市立中11校から参加した生徒会長ら計24人が並んだ。防災、国際交流、高齢者支援、スポーツ振興な

ど、多岐にわたる課題を一般質問で取り上げた。市長、副市長、部長らが座る席は通常の市議会本会議とまったく同じだ。制服姿の中学生議員たちの質問・提案に栗林次美市長らが、データを交えながら現状や取り組みについて説明し、今後の方針などを丁寧に答弁した。本物の市議会議員たちは傍聴席から見守った。

中学生議員の質問は鋭く、答弁する市長らが「大変意義深い」が少し研究してみたい」「実現させる時は、中学生の方々からもアイデアを寄せてほしい」と、たじたじになる場面も。



大仙市の中学生議会で一般質問する生徒（9日、大仙市議会の議場で）

一般質問に続き、「大仙市中学生議会宣言」について話し合い、全員一致で、自然豊かな美しい大仙を守り、若者とお年寄りが手を取り合って共に生き、笑顔あふれる明るいまちを創造していく」という内容で決した。

議長を務めた南外中学校生徒会長の伊藤真央さん（2年）は、閉会式で「このまちをよりよくするために、

には、いろいろな方の意見を聞いて、話し合っていくことが大切だと改めて感じました。このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます」とあいさつ。頼もしい中学生たちに満足そうな表情を浮かべた栗林市長は「皆さんは、よく市の課題を調査していて、我々は大変緊張しました。皆さんの提言をしっかりと受け止めたい」と述べた。仙北市議会でも市立7小学校の児童会役員と5中学校の生徒会役員計24人が議員となった。こちらでも、「市内のスポーツ施設が少ない。もう少し充実させられないだろうか」「地元の特産品や名産品をどのように育てていくか」などと鋭い質問があり、活発な議論が行われた。

門脇光浩市長や市幹部が市の取り組みや方針を説明、「たいへん参考になりました」などと答弁していた。

仙北新報改題



発行所 秋田民報社  
〒014 大仙市大曲栄町10番22号  
J0661  
電話 0187-63-2122  
郵便振替口座 秋田02570347

**DUSKIN**  
ダスキン  
大曲支店  
大仙市大曲日の出町2-1-7  
☎0120-006-615

# 一般質問で議論

## 大仙市の中学生議会



招集あいさつする栗林市長

大仙市内十一中学校の生徒が議長や議員となって、まちづくりや教育行政など身近なテーマについて一般質問形式で質問、提案を行う「中学生議会」が九日、本会議場で開催された。防災や国際交流、地域の福祉や高齢者支援に関することなどについて市当局と議論した。

議長は南外中学校の伊藤真央さん、副議長は大槻悠也さんが務め、進行的な栗林次美市長の招集あいさつの後、議席の指定を行った。会期を一日間と決定し、一般質問に入った。

出席した中学生議員は二十四人。一般質問は各学校ごとに行った。

トップは大曲中学校の伊藤徹さんと渡邊さくらさんのペア。被災地交流や合同防災訓練を通して、防災意識が高まったことから「大仙市では高齢者や支障が必要な人々の避難対策としてどのようなものがあるか」、「防災設備、備蓄の現状はどのようなになっているのか」、「一年一回『大仙防災デー』を設け、避難所である中学校で住民と中学生が合同の訓練することを提案する」と質問。その中で市当局は「少し研究したいと思うが、昨年の平和、大曲中学校、神岡小学校のように、地域と一緒に実施する防災訓練を独自に企画するのも大変意義あることだと思ふ。各学校と町内会、そして大仙市の防災担当者と相談し、学校と地域が一体となった防災訓練を今年も計画してもらいたい。こうした防災訓練が市内各地域で統一した日にちでなくても毎年行われ

ることが大切だと思ふ」と答弁した。

市民バスと乗り合いタクシーの存在を多くの市民に知ってもらう工夫について質問したのは西仙北中学校の佐々木光さんと大塚美穂さん。市当局からは「市のホームページの中に公共交通のページを新しく設けて時刻表や路線図などを確認できるようにし



一般質問する生徒

ている。機会があれば昇ってもらいたい」と話した。

議会では「私たち大仙市の中学生は、未来をつくる担い手として、この自然豊かな美しい大仙を守り、若者と若年寄りが手を取り合って共に生き、笑顔あふれる明るいまちを創造していくことを誓います」とした決議案を可決した。

### ぎょうの紙面

- 来年の方針を話し合う  
4氏を称える  
ものづくりに新技術  
ブランド賞に5点
- ②面
  - ③面
  - ③面
  - ④面



1 本物の議会と同様の緊張感のある雰囲気で行われた中学生議会。南外中の伊藤真央さんが議長を、同中の大槻悠也さんが副議長を務めました。

2 一般質問では、登壇した議員役の中学生が資料や写真を提示しながら市側に質問。協和中の生徒はプロのスポーツ選手や芸術家と小中学生が交流する「夢の教室」事業の充実を求めました。

## 中学生議員が市政に意見

### 中学生議会

市内の中学生が議員となり、まちづくりなどについて質問や提案をする大仙市中学生議会が1月9日、大曲庁舎内の市議会議場で行われました。

地域の将来を担う中学生に模擬議会への参加体験を通じて市政や市議会への興味と理解を深め、まちづくりに参加する意欲をもってほしいと、市議会や市、市教育委員会が企画したもの。今回が初めての開催です。

議会では、市内11校から参加した24人が議長役や議員役を務めました。議事は、本物の議会と同様に議長役の中学生のリードで進行。市議会議員などが傍聴席から見守る中、議員役の中学生が防災や高齢者福祉、ゴミや除雪の問題など市政の幅広い分野について市側に鋭く厳しい質問をしたり、前向きな提案を述べたりしました。中学生の熱のこもった発言に対して、市長や市の担当部長が真剣な面持ちで答弁しました。

議長として議事進行役を務めた伊藤真央さん（南外中2年）は、閉会式で「まちをよりよくするためには、いろいろな方の意見を聞き、話し合うことが大事だと感じました」と感想を述べました。

議会で中学生から挙げられた質問や提案は、貴重な意見としてまちづくりに反映されます。